

第5回府中市学校施設老朽化対策推進協議会の開催結果

- 1 日 時 令和6年1月29日（月）午後1時15分～午後3時45分
- 2 場 所 片町文化センター 3階講堂
- 3 出席委員 13名（選出区分ごとに五十音順）
池澤龍三委員、田中稲子委員、田中友章委員、三輪律江委員、森嶋正行委員、成清敏治委員、村野太郎委員、筒井孝敏委員、吉田佳子委員、河井文委員、岡本啓子委員、堺美佐子委員、高橋成忠委員
- 4 欠席委員 上村貴子委員
- 5 出席職員 矢ヶ崎教育部長、角倉学校施設課長、遠藤学校施設課長補佐、崎井学校施設整備担当副主幹、佐伯学務保健課長、濱田指導室教育指導担当主幹、七里学校施設課主査、林学校施設課主任、平岡学校施設課事務職員
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 内 容
 - (1) 前回会議録確認
 - (2) 議題
 - ア 児童・生徒数の推計と望ましい校舎建築について
 - イ 仮設校舎建設の方向性について
 - ウ 地域開放・複合化の方向性について
 - (3) 報告事項 八小1～3年生改築後アンケート集計結果について
 - (4) その他
- 8 配布資料
 - 資料19 児童・生徒数の推計と望ましい校舎建築
 - 資料20 仮設校舎建設の方向性
 - 資料21 地域開放・複合化の方向性
 - 資料22 八小1～3年改築後アンケート実施結果

会議録

○事務局 皆さま、こんにちは。ただ今から「第5回府中市学校施設老朽化対策推進協議会」を開催いたします。それでは会長、お願いいたします。

○会長 はい。それでは、第5回府中市学校施設老朽化対策推進協議会を開催したいと思います。皆さま、本年もよろしくお願いいたします。それでははじめに、事務局に確認しますが、本日の傍聴の申出の状況はいかがでしょうか。

○事務局 はい。本日、傍聴を希望される方はいらっしゃいません。

○会長 はい。傍聴者はいらっしゃらないということですので次に、進みたいと思います。委員の皆様の出席状況について、事務局から報告をお願いいたします。

○事務局 はい。欠席者1名です。また、オンラインでご出席は1名です。出席委員数が過半数に達しておりますので、本日の会議は有効に成立しております。

○会長 はい。ありがとうございます。それでは次に、前回の会議録の確定をさせていただきたいと思います。既に委員の皆様には、事前に送付をさせていただいておりますが、何か修正等のご連絡は事務局の方にごございましたでしょうか。

○事務局 はい。委員の方から、修正のご連絡はいただいておりますが、事務局にて、誤字等の軽微な修正を今後かけさせていただきたいと思っております。以上でございます。

○会長 はい。ありがとうございます。それでは、基本的には前回の議事録を本日確定ということで、事務局の方で、微細な誤字等の修正をしていただいた上で、施政情報公開室や市の方ホームページ等で公開することとさせていただきたいと思います。なお、本日机上に会議録を配布しておりますが、こちらの方、委員の名前等入っておりますが、黄色く着色されている部分は、委員個人を特定できる表記が含まれておりますので、公開時には、削除をさせていただくことにします。続いて、お手元の次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思います。まず、事務局の方から資料の確認をしていただけますでしょうか。

○事務局 はい。それでは、確認をさせていただきます。本日は、会議次第のほか、資料が4点ございます。

資料19 児童・生徒数の推計と望ましい校舎建築

資料20 仮設校舎建設の方向性

資料21 地域開放・複合化の方向性

資料22 八小1～3年改築後アンケート実施結果

でございます。資料については、紙媒体の資料を机に置かせていただいております。これらの資料につきまして、不足等はございませんでしょうか。

《不足資料なし》

○事務局 ありがとうございます。本日の資料につきましては、以上でございます。

○会長 ありがとうございます。それでは、本日の議題に入らせていただきたいと思います。はじめに、議題の(1)「児童・生徒数の推計と望ましい校舎建築」についてですけれども、事務局の方から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、議題(1)「児童・生徒数の推計と望ましい校舎建築」についてご説明いたします。長くなりますので、着座にてご説明させていただきます。それでは、「資料19 児童・生徒数の推計と望ましい校舎建築」をご覧ください。

今回からは、テーマごとに学校施設改築・長寿命化改修計画の改定内容について協議を深めていきます。

人口動態は改築計画の基礎となる情報となり、今後のテーマにも関わりますので、初めに共有させていただきます。

1ページをご覧ください。長期的な見通しとして、5歳から14歳の将来人口推計の表を掲載しております。現計画本編26ページに掲載しているものとなりまして、府中市、東京都、全国のそれぞれの将来人口の増減率の比較を、平成27年度を基準年度としてグラフ化したものです。府中市と東京都では平成27年度を基準とすると短期的に増加し、その後緩やかに減少していく見込みとなっています。一方、全国の5～14歳人口は減少を続け、令和42年度には平成27年度の6割程度まで減少すると予測されています。

なお、令和7年度前後を点線で囲っておりますが、こちらは次ページのグラフの範囲である令和4年度から令和10年度を示しています。

それではページをおめくりいただき、2ページをお願いします。短期的な見通しとして、令和4年度から令和10年度にかけての6年間の推計を掲載しています。この期間で比較すると、児童・生徒数の減少率は、東京都が約7%なのに対し、府中市は約12%であると予測されています。なお、全国の6～14歳人口の減少率も約12%であると予想されていますが、長期的には東京都や府中市よりも減少率が大きくなる見込みです。

続きまして3ページをお願いいたします。府中市の小・中学校の児童生徒数、学級数の推計になります。令和10年度までの推計値については、第5回府中市学校適正規模・適正配置検討協議会資料の推計値を掲載しております。緑で表示した部分、中学校の令和16年度の推計値については、令和4年4月1日時点の住民基本台帳人口を基準に、コーホート要因法を用いて推計した値を掲載しております。令和4年度から令和10年度までの6年間で、小学校は39学級（2,366人）、中学校は4学級（45人）減少する見込みです。また、中学校は、令和4年度から令和16年度までの12年間で、37学級（1,493人）減少する見込みです。

続きまして4ページをお願いいたします。小学校について、学校ごとの規模の変化を視覚的に表すために整理した図になります。令和4年生まれの子供が小学校に入学する時期が令和10年度になります。3ページのデータは、令和4年度と令和10年度時点の児童数を比較しています。図の見方ですが、円の大きさと児童数を表しております。実線の円が令和4年度の児童数。点線の円が令和10年度の児童数になります。全校で減少傾向となります。右上に参考として、23区・26市の学校の平均・府中市立小学校22校の平均を掲載しています。市の中心部ほど平均を上回る規模であり、一小、二小の規模が顕著に大きい状況となっております。

5ページをお願いいたします。こちらは中学校の生徒数推移について整理した図になります。令和4年度時点と令和16年度時点の生徒数を比較しております。なお、令和16年度は、令和4年生まれの子供が中学校に入学する年度となります。実線の円が令和4年度の生徒数で、点線の円が令和16年度の生徒数になります。中学校についても、すべての学校で生徒数が減少する傾向です。

小・中学校に共通して、中心部の学校は児童生徒数減少が緩やかな一方、周辺部の学校は減少が大きく、学校規模の偏りが大きいことが分かります。学級数が多すぎても少なすぎてもデメリットが生じ、学校規模の偏りは公平な教育環境を妨げる恐れがあることから、対策が必要とされます。

続きまして6ページをお願いいたします。「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会」の概要になります。前のページでお示したような偏りを適正に近づけるため、府中市では「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会」を設立しております。本協議会と同じ附属機関という位置づけで教育委員会から諮問を受け、令和4年9月から令和5年12月にかけて、適正規模・適正配置を実現するための方策について検討を進めておりました。

まず、府中市における適正規模の学級数の定義になりますが、赤線で囲っております標準規模として、小学校は12～24学級とし、25学級以上を大規模校、11学級以下を小規模校と定義しております。また、中学校においては12～18学級を標準規模校、19学級以上を大規模校、11学級以下を小規模校と定義しています。その下、対策検討校としましては、小規模校として武蔵台小学校、府中第七中学校、大規模校として府中第一小学校、府中第二小学校が該当し、各校を含めた周辺校のグループごとに対応策が検討されました。一番下の対応策でございますが、通学区域の見直し、学校選択制、統合、校舎の増築等の4つで、それぞれの対応策が検討されました。なお、府中市学校適正規模・適正配置検討協議会の答申は本年2月に公表を予定しており、本協議会では次回の第6回で内容についてご説明させていただく予定でございます。

続きまして7ページをご覧ください。現計画に記載された整備方針と、用途転用を想定した設計の工夫を掲載しております。適正規模・適正配置検討協議会の導いた対応策によって学校間の偏りが適正に近づくとしても、人口動態を考えたとき、今後児童生徒数が減少することは確実です。改築に当たっては、改築時点の学級数に見合った規模で建設することとなりますが、学校によっては、将来的に余剰教室が生じます。そうした学校については、対策が必要となります。現計画の整備方針ではございますが、「児童・生徒数の状況に応じて、柔軟に対応できるよう、建物の解体や減築、他の用途への転用がしやすい構造や構法を採用する。」としております。

次に対応策を2例紹介します。下段でございますが、1例目は、現在建設を進めております、第二期改築実施校である府中第六小学校で、将来対応として設計されているものです。六小は将来的に減少が見込まれている学校であった

ため、用途転用の検討を行いました。まず、左側の図でございますが、学校と分離したアプローチ動線と、エレベーターの増築スペースを確保しております。さらに、右側の図になりますが、レイアウト変更を想定し、用途転用範囲に建物を支える役割をもつ耐力壁を設けていないほか、空調系統、電源区分も学校と分離可能な計画としております。用途転用範囲と学校の範囲を区画することで、学校と完全に動線を分離することが可能となっております。

続いて8ページをお願いいたします。2例目として、減築・用途転用を想定した設計のイメージを掲載しています。従来は鉄筋コンクリート造で大きく建設している建物を、鉄筋コンクリート造の普通教室棟と、鉄骨造の別棟とに分けて建設するというものです。将来、空き教室を特別教室に改装し、空いた特別教室棟は他の用途に転用、もしくは解体します。転用する用途があれば解体はしませんが、何もないければ、解体することでその後の維持管理にかかるコストを抑制できると考えられます。

以上のような対応により、将来に備えておくことを想定しています。ただし、児童生徒数の推計や敷地の状況などが学校ごとに異なり、一律の対応を定めておくことは難しいことから、事務局といたしましては、現在の整備方針の記載内容を維持することを考えております。この場では、整備方針について付け加えることなどがございましたら、ご意見を賜りたいと考えております。資料19についての説明は以上でございます。

○会長 はい。ありがとうございました。只今、事務局の方から資料19について、府中市の人口推計や子供たちの小学校の入学年の将来の推計、それから、中学校の入学年の推計などご紹介をいただいて、その後の対応についてのご説明をいただいたというところです。これらについて、皆様の方から意見や質問をいただければと思いますので、どなたからでも結構ですので、挙手の上、発言していただければと思います。それから、会議録を作成しますので、その都合上、冒頭でお名前をおっしゃっていただいてから発言をお願いしたいと思います。それでは、ご質問やご意見等ございましたら、いただければと思います。いかがでしょうか。

○委員 児童・生徒数の推移という表がありまして、第一小学校、1,014で減るということですが、今基本台帳からだから、これしかないと思うのですが。現状で国際通り辺り、駅から出口までの間で、5つくらい、結構大規模なマンションの建築が始まっているようなんですが。そうすると多分、1,200～1,300ではないかというのが、地元の人達の許容までをある程

度、その予想の中に入れる必要があるんじゃないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○会長 はい。事務局の方から何かご回答があればお願いします。周辺の開発動向も踏まえて答弁を。将来数とか。

○事務局 学務保健課の方で、適正規模・適正配置の方、試算しておりました、その関係でお答えさせていただきます。この令和4年度の協議会に当たっての推計を出すに当たりまして、マンションなどの開発については、計画の段階で間取りですとか、規模ですとか、把握に努めておりますが、どれくらいの規模ですとか、特にマンションの間取りですとかグレードですね。間取りやグレードによっても、子供の数とかが全然違ってきますので、そういった不確定な部分の要素の方は除いて推定を出しているところでありますので、その結果こういった数字になっているところでございます。確かに、一小付近は開発が進んでおりますので、その辺のところの児童数の増減については、今注視しているところであります。以上でございます。

○会長 今のご回答について、何かご返答はございますでしょうか。

○委員 これが中心ではないところの学校だったら、まあまあいいのかな、と気がするのですが、今回は、中心も商業も含めてなんですが、府中の中心と言っているくらいで、そうすると売却もされ、計画もできてちゃったという話になるので、今でも大きいんですが、多分、二小を超えるでしょう、という話が出ているので、その辺を早めにヒアリングとかをしていただく必要があるのではないかと思います。以上です。

○会長 ありがとうございます。多分、前回の計画を作った時も、4ページ、5ページにあるような図を作っていて、皆さん確認をしたんですけども、これ見ていただくと分かるように、やはり、駅周辺の利便性の良いところに、かなりお子さんのいるご家庭の人口は張り付いていることがとあって、そういうところは、かなり丸が大きくなっていることが分かるかと思います。周辺のそうでないところの、同じ市内でも単用な状態でなくて、地域ごとの特色があるということがありますので、計画の方では、その辺も加味して、先ほどもそういう説明があったかと思いますが、記述をしていくことになろうかと思います。今回の資料で、中期的に日本の人口も減ってくるのに合わせて、今まで、多分、東京都心部はまだ少し増えるんですが、府中市さんの方もあまり減少傾向が顕著ではなかったような状況から、少し減少のトレンドが見えてくる

ような状況になってきていると思いますので、その辺を目配せしてどうするかということも少し議論できるとよろしいのかなと思います。よろしければ次にいきたいと思います。

○委員 今回の議論と全く同じことをご質問というか、確認させていただきたいと思っていたのですが。多分、計画課の方で色んな周りの情報を入れながら、どの段階でどれくらいの規模がくるかというのもなんですが、開発自体は、大きい開発にかなり事業者の方が先に区長の方に相談に来られると思いますので、その辺りを常に連動するような庁内の仕組み、というか体制を整えていただきながら、推考を少し直していく、そういう動きを、特に適正規模の方では必要じゃないかなと思っておりますので、今、特に一小と二小の辺りは、大規模開発に入っているというふうに聞いておりますので、その辺りのところを、まさに会長の仰ったことに加えて、庁内の情報の、将来推計だけでなく、現状をどのように分析するかという、定点観測的な組織というかワーキングみたいなことを、学校教育の方だけでなく、開発課の方とかともやられているのかな、というのが1点です。それから、恐らく、この対応策の中には、通学域の見直しというのもそれに絡んできて、少し分散させるとか色々あると思いますが、学校政策性というのは、中々、子供の動きとしては、それほど適切な対応策ではないと、私は個人的には考えています。やはり、それによって、子供たちの動きも大分変わりますし、地域コミュニティとの繋がりも少し希薄になる動きを促進する場合がありますし、この辺り、4つの対応策それぞれ検討というのは、この委員会にはないと思いますけども、少しその辺りは丁寧に捉えていただきたいなと思っているのと、あと、多分、他都市においても中心部に学童期の子供たちがガッと集まって、ガッと減るという動きは、どこの都市にもあって、郊外は閉鎖していくか、保育園とかも先行してそういう動きをされていると思いますので。例えば、私、横浜の方だと、みなとみらい本町小学校か、分校制度にして10年期期間限定で作ったんですけども、10年経ってまだ継続する、ということで、確か整備方針を変えました。あとは、鶴見の方でも、小学校の中で、高学年と1～4年生が別の棟に、本町小学校は小学校そのものを、まるっと分校にしたというタイプなのですが、もう一つのやり方は、小学校の中で、学年で、町の中に分散しながら、むしろそれも地域の方々がフォローしながら、面で学校を作る、町中分校制度みたいな、そういうこともやっていたりするのもあって、事例的には色々な動きが出ていると思いますので、むしろ、そういう対応策に関しては、他の行政の動きとかも少し視野に入れながら、府中らしい対応策、特に中心部のところは考えていくのは、早めに進めていくのが適切じゃないかなと思いました。以上2点です。

○会長 はい。ありがとうございます。今、いただいた意見について何かございますでしょうか。

○事務局 まず、1点目の庁内の体制ということでございますけども、実は、地域まちづくり条例を作った時から、大規模開発事業の調整委員会ということで、庁内での関係課の動き、組み換えの方が委員会もできております。その委員に私がなっております、今の委員からご質問いただいた中で、早めに大規模な土地取引があった場所、大規模都市利用構想があった場所については、いずれも私の方に入ってきますので、それを通じて、教育部の中の関係課の方に、先に情報を共有させていただいて、課題の方の抽出を今しているところでございます。次に、分散の話ですけども、今回は、適正規模・適正配置でやっていく中でもそうなんですけど、今回、前回の委員様に色々ご協議いただいた中で、こういった図を作らせていただきましたけども、これが一目瞭然である訳なんですけど、どこに、どういうふうに分散とかやっていくのがいいのかということがあるんですけど、ここで1つ課題がありまして、学域の変更とかそういったものがございまして。ここには、1つ地域の方々のご協力であるとか、そういったところもございまして、今回の適正規模・適正配置の中の考え方の中にも、実はその学域の変更点も入れさせていただいているところもございまして、今後そういったところも踏まえて、保持というのご意見もあるかと思っておりますので、ご検討の方をさせていただければと思います。

○会長 はい。ありがとうございます。今、委員からも意見があったように、利便性のいいところが元々大規模なところに、少し、更に開発動向によっては、更に大きくなるという可能性がありますので、すべての学校ではなくて、いくつかの条件の学校について、そういう状況が生まれるということで、元々、今でも大規模校ということで課題がある訳で、その辺少し目配せをして書き方を考えていきたいと思っております。その他、いかがでしょうか。

○委員 第1の議題がですね、「児童・生徒数の推計と併せて望ましい校舎建築について」というテーマですので、少しお話させていただこうかと思っております。皆様、議論されているように、絶対数を見てみると、先ほどの2ページ、3ページを見てみれば、小学生については僅か6年間で2,366名の絶対数、何ポイント下がって上がりました、という一見分かったようで分かりづらいと思っておりますけど、絶対数と捉えると2,366を単純に6で割っても、400名近いということで、当然ですけども七小さんとかの学校全体数に匹敵する位の規模が全体としては減っていく、ということは、やはりトレンドとしてはしっかり捉えておくべきだろうとだと思いますので、先ほどから議論されて

いる、地域によってどうなのかというのは、適正規模・適正配置の方でも私言っているんですけども、非常に確かに悩ましいところが多い、大規模校については大規模校の悩ましいところがいっぱいある一方、七小さん、八小さんのように非常に小さい学校については、本当に学校のクラス替えもできないという状態が6年間ずっと続くということが、本当に環境が良いのかというのが非常にシビアな議論として、そういう意見としてありますし。そういう意味では、4ページ、5ページは、全体としては減っていくものの、府中市さんとする、学校のバランスというか、統合も含めて学区の見直しを含めて、全体の最適化を目指していかないと、一点に1つの学校を全部見ていくと、やはり市全体のバランスが崩れてしまうので、やはりそこは、今後の児童数をしっかり見ながら、全体最適をしていくべきだなと改めて思いました。次のテーマの望ましい校舎建築というのを考えた時に、そういったことを全体的に踏まえると、7ページにあるように、どうしても昭和の時代は、建物を作って、器を作るとにぎわいだったり、コミュニティが形成されたり、というふうに思いがちですけども、これからは中身、コンテンツの方が大事、教育についても結局器が大事というだけではなくて、教育のあり方そのものの質を変えていかなくてはならない時代だと思いますので、そういう意味では、建物というものに非常にお金がかかってきますので、建築或いは解体というふうな方向性をしっかり見据えた表現をここに書いておくのは大事だと思いますし、あえて付け加えるとなると、手法も、鉄骨造もそうですが、PPPからの観点からすると、別に市が全てを所有権として持っている必要はなくて、将来、もし無くなるのであれば、そこはリース方式という制度もありますし、何でもかんでも昭和の時代に資産を持っていなくてはいけないという発想も、この際やっぱり私はやめて、民間さんの施設も利用するという方向性も、今後はあってもいいのかなと。特に、本設と申しあげたのは、箱ものだけに囚われがちですけども、DXの時代ですので、サテライト的なオフィスがあるみたいに、サテライト的な学校みたいなものを一時的にこの地区にこういうふうに置くというのがあっても、子供たちはそれ程、抵抗はないのだと思います。そういう意味では、しっかり時間軸を入れて考えていく事が大事だなというふうに。あえて言うとPPPの視点とかは余り触れなかったもので、そういう意味では、作り方自体もこれから創意工夫していかないと、その後の議論である、目の前のお金をどうしましょう、という議論に繋がっていかないとしますので、望ましい校舎棟というのはそういうものではないのかなと思いました。以上です。

○会長 はい。ありがとうございました。今、主に意見をいただきましたが、今いただいた意見について、事務局の方から何かコメントされることはありますか。特にない。先ほど、大規模校の議論をしましたけれども、それとは別

に、今、委員がご指摘になったとおり、元々少し規模の小さいところでさらに減少傾向になったり、そこまで小規模校でなかったところが、減少の結果、小規模校になるようなトレンドを見せているようなところもありますから、こういうところはやはりいくつかの選択肢を、どれを対応策として考えるのか、複数検討して組み合わせていくというところもあるかもしれないので、その辺も別のトレンドとしてしっかり見ていく必要があるということかなと思いました。あと、意見としてPPPなどの民間の力を借りた方法というご意見もありましたが、この辺りについて、何か現時点で検討の俎上に上がっていることなどございますか。

○事務局 今のところ、直ぐに減築に対してのPPP手法、リースでの導入は上がっていないのですが、一時的に棟数が増える場合には、将来的にそこが無くなる見込みで作っているものなので、そういったところについては、リースで仮設校舎を建設しております。今、改築している六小についても、一時には児童数が多くなっている状況があったので、仮設校舎を建てています。ただ中々、落込みが少なかったので継続して使用していたのですが、その後、学童が増えてきたというところがあったので、学校での児童数が減った後の使い方としては、学童に転用した形で使い続けていて、今回、改築を迎えたという状況がございます。

○会長 はい。ありがとうございます。多分、学童に改築するというのは、比較的転用がしやすい部類だと思うのですが、中々、学校施設で学校の校地内にあるものを他の用途に簡単には転用できないですね。もし、あれでしたら委員に少し補足していただくといいかもしれないのですが、減ることが見込まれている状況の中で、建替の時期が来てしまった時に、現状の、多分キャパシティでそのまま建ててしまえば必ず余剰が出るので、そうすると減築を備えましょうと、ということになるのですけども、それが果たして良いシナリオなのかという。ピークが見込まれているのであれば、ピークアウト少しするところにターゲットに定めて、オーバーピークのところをどういうふうに乗り切るのかというのも考え方としてはあると思います。それがいいのかという議論もあると思いますし、そうは言っても、ピークの時に学校に通われる児童さん、生徒さんもいるので、そういうピークを乗り切る時にちょっと我慢するような状況が施設面で生まれてしまうことを許容できるのかとか、そうであったとしても大きな変化がないような乗り切り方があるのかとか、その辺は少し議論を深めないといけないかなと思いました。委員、何かございますか。

○委員 現状だと、多分ですね、市の事情は財源が特に厳しいので、通常補助金を当てにするという傾向がどうしてもあって、文科省さんの補助金の考え方は、基本的に建設する時のクラス数に応じて積算してくことになるので、少しでもイニシャルコスト、補助金で稼ぎたいと思えば、当然ですけど、最大の数を取りたいと正直な気持ちとしてあろうかと思います。なので、それは悪いことではないと思うのですが、後々出てくる減築の手法を、縦構造で縦に建物を積んでしまうと、減築するのが、非常に困難を極めるので、そういう意味ではここに書いてあるように、出来れば敷地が許せば、横並びで造っておいて、そのところをロケットじゃないですけど切り離して、別のものをドッキングさせるとか、逆にいらないのであれば空地として、公園みたいに整備するとか。なかなかテーマにはならないと思うんですが。これからはなるべく学校とはいえども、学校だけで使うというよりも、グラウンドを含めて公園のように使っていく。日本はどうしても欧米に比べて都市公園面積が非常に少ないですし、そういう意味では、空地を稼いでおくということは、今後、減築ではなくて、必要な部分だと思いますので、ここに書いてある減築というのも付け加えておいた方がいいと思いますので、この表現はいくつかあると思いますが。今後手法は様々ありますよ、ということを、市の方は認識するべきだな、と思います。補助金もいつまでも、国も補助単価が減ってきているので、それほど補助金、補助金って言っている場合ではない。私、PPPって申しあげたのは、これまでのように、補助金に頼りすぎちゃうと、どうしてもその目先のお金だけになってしまうので、補助金が悪いわけではなくて、補助金だけに頼らない施設造りというのをしっかり考えていかないと行政は立ち行かなくなるのではないかと、というふうな感覚は持っている。以上です。

○会長 はい。ありがとうございました。その他、いかがでしょうか。

○委員 後でいいかなとも思ったんですが。先ほど、委員からも対応策についての話が出たりしたので、小さいところについて、統合するだとか大きいところを分けるとか、なかなか。方法に関しても、今、お話しいただいた話の中にもあるんですが、例えば、武蔵台小学校、第七小学校、第七中学校、なお且つ、文化センターも同じ敷地に十分土地はあるのですが、この後の建替えに関して、仮校舎に関しても両方どうでも動ける。建設費に関しても3つとか4つが1つの建物になっている。今、言われた多目的のことに関しても、地域に関くに関しても。ですから、これを一律にすべて、すべての学校に平等に、と言われるよりも、四ツ谷小学校と例えば、八中も隣接しているんですよ。学童も隣にあったりするんで。そういった場所、場所によって、小中、例えば、一貫はちょっとできませんが、小中連携校みたいな形でするのもありなのかなと思

います。今、現状に関しても武蔵台小学校と七小には野球部があるんですが、七中に野球部はないんです。その理由を尋ねると、サッカー部もないんです。要するに、先生がいない。教職員の人数がクラス分ないんです。これが小学校と一緒になると、教職員が増えて、外部コーチの話もあるんですが、それも、昨年決まる話が決まらなかったりするので。場所もグラウンドも少年野球場も外でしたい。文化センターも今、「文化センター在り方検討審議会」と並行してやっていて、文化センターも50年経ったので、これが終わったら、次一緒に考えて貰う場所もあるんじゃないかなというふうに思いました。一応、そんなことで、対応策のところでちょっと言っておかないといけないと思って、一応今回はその話です。以上です。

○会長 はい。今の点で何かございますか。

○事務局 はい。ありがとうございます。今、施設の共有の話が少し出てたんですけど、やはり、市内の学校の地図を見ていただくと隣接している学校がある部分もありますので、小中連携とか、小中一貫という、その教育の部分というのは、この審議会での議論は難しい部分があると思いますが、隣接している学校の施設を例えば共有し使っていくというような、ハード的な部分についてご意見いただけますと、今後、そういった学校も順次建替えていく学校に入っていくこととなりますので、そういった学校では整備方針を基に建て方の工夫をしていく、ということが出来るのかなと思いますので、そういったご意見もいただければと思っています。

○会長 はい。ありがとうございます。恐らく6ページの対応策のところは、ひとまず可能性があるものが列記している形になっているんでしょうけど、これらがどの回にも列記される訳ではなくて、こういう条件が整うとこういう事についてはこういう事だと思います。あと今、委員がおっしゃったように、隣接地でいくつか普通だと実現しないような条件のところの場合には、共有化だとか複合化だとか、そういうことができるところでは仮設校舎の使い回しとか、色々な可能性が出てくる可能性がありますので、その辺りを工夫していただくということでよろしいでしょうか。

○委員 統廃合を考えると、小学校、中学校はあるのですが、文化センターとか市の施設で、そういったことも入れて欲しいなと思うのですが。立地的には小学校があって、中学校があって、文化センターもあるんです。そこから400～500m行くと七小があったりするのですが。今、その小学校と中学校とか、小学校と小学校までは広げていただけるのかなと思っておりませんが、文

化センターの在り方に関しても、可能性を入れて貰えたらありがたい、ということですが。

○会長 はい。状況は見ていただくとして、計画の方にどこまで書き込めるかというのがあると思うので、その辺り検討して状況を見ていただくというふうにします。

○事務局 今の方で、資料21の方に入っていきますと、少し先の方なのですが、複合化ということで、今の委員が言われたようなところは、少しこの中でお話をさせていただきますので、また、このところでご協議いただければと思います。以上です。

○会長 はい。わかりました。それでは、後ほどの協議のところでもう一度確認していただいて振り返りたいと思います。その他、こちらの方の資料19についてのご質問やご意見はございますでしょうか。委員、この件についてご意見等はございますでしょうか。

○委員 この件については、大丈夫です。

○会長 はい。特にないとのことですので、もし委員の皆さんの方から特にご意見がなければ、この部分に関しては、そんなに整備方針を大きく変えるということではないと思いますので、今、いただいたような意見を反映させる、出来るか点検していただいて、整備方針に加えるかどうかというのを検討していくか、ということにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。それでは、こちらの方の議題(1)は以上とさせていただいて、議題の(2)の方に移らせていただきたいと思います。では、議題(2)の「仮設校舎の建設の方向」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 それでは、議題(2)「仮設校舎建設の方向性」についてご説明いたします。「資料20 今後の仮設校舎建設の方向性について」をご覧ください。

現計画において、仮設校舎に関しての整備方針としては、「現段階においては、原則として、学校ごとに校地内に仮設校舎を建設し、児童・生徒は仮設校舎で授業を受けることを想定しています。」としております。仮設校舎のメリットでございますが、①現状と同じ配置で改築ができ、②環境の変化が少ないことが挙げられます。一方でデメリットとしては、①多額の費用が掛かるこ

と、②旧校舎から仮設校舎、仮設校舎から新校舎へと引越を2回行う必要があり、学校に負担がかかることなどが挙げられます。

では、仮設校舎の費用についてでございますが、仮設校舎は賃貸借契約により調達しており、各校の契約金額は、八小が約5億5千万円、一中が約6億6千万円、六小が約9億1千万円でございます。三小は仮設校舎を建設しない計画で工事を進めています。利用期間は、八小・一中が1年8か月、六小が2年間です。

契約期間には設計、築造、解体の期間を含みますが、実際に児童生徒が利用している期間を記載しております。また一番下になりますが、この金額に加え、電話回線工事、インターネット回線、ICT機器及びネットワーク工事、移転に伴うごみ処理などの費用が発生します。

ページをおめくりいただき、2ページをお願いいたします。仮設校舎の建設の費用に注目すると、2年程度利用した後は解体してしまう建物のために、億単位の費用をかけていますので、必要がない限り、仮設校舎を建設しない方が望ましいと考えられます。ただし、学校の中には仮設校舎を建設し、建物配置を変えないことで教育環境を維持できる学校もあると考えられます。つきましては、現在の整備方針を次のように見直すことを提案します。

「仮設校舎については、現在の建物配置を変更せずに済むものの、改築事業費に与える影響が大きいことから、各校の改築時には仮設校舎を建設しない配置計画を検討します。」

その検討に当たっては、建物のまとまりや校庭の大きさなどの教育環境面のほか、各校の建築における制約条件などの視点も踏まえ、改築後にも良好な環境を確保できる計画とします。視点の例でございますが、下段になりますが、視点の例として

- ・改築完了後に、まとまった整形の校庭ができるか。
- ・校舎と体育館のまとまりが良いなど、無理のない配置ができるか。
- ・体育館やプール、学童が使えない時期が無いよう、建替え順序を計画できるか。
- ・都市計画との整合性がとれるか。

などが挙げられます。本議題においては、委員の皆様に見直し後の整備方針・視点についてご意見を賜りたいと考えております。

続いて、3ページをお願いします。

検討の材料としていただくため、このページ以降で、建物の配置計画の決定までの流れなどをご説明いたします。

はじめに、改築校の建物配置計画決定までの大きな流れでございますが、まず、改築計画の整備方針を受け、各学校で改築に伴う基本構想を策定します。この段階では、配置計画の考え方を整理した上で、建物配置を複数案検討します。次に設計者の選定に進みます。プロポーザル方式により、基本計画、基本設計・実施設計の業務委託事業者を募集します。募集に当たっては、建物配置を含めた課題を設定し、設計の提案を受けます。基本構想で検討した配置案と比較しながら、提案の企画力、実現性等の審査項目を総合的に評価し、最も評価が高い設計者を設計業務委託業者として選定します。その後、基本計画策定の段階で配置計画を決定します。

4 ページをお願いいたします。ここから4 ページに渡りまして、各改築校で設計者から提案を受けた配置計画を掲載しております。はじめに、府中第八小学校の配置計画に関する設計者からの提案になります。資料の見方でございますが、資料の左上に、市の配置計画の考え方、右上には、採用された設計者がプロポーザル案で大切に考えたことを掲載しています。その下の表でございますが、一番左に改築する前の建物配置があり、その隣に基本構想の段階で市が検討していたA案からD案までの4つの配置計画案、一番右に採用された設計者のプロポーザル時の提案を掲載しています。それぞれの案について、想定される建替え手順、平面計画、校庭の配置、周辺との関係の、各項目に対する考察を掲載しております。A案からD案の中で、B案が仮設校舎を建設しない案でございました。それに対し採用されたプロポーザル案は、仮設校舎を建設することによって、北側に校舎、南側に校庭という位置関係を変更しないものでございました。資料右側のプロポーザル案、各項目の考察部分になりますが、平面計画では、校舎と体育館のまとまりが良い。校庭については、校舎の南側に校庭があり日当たりが良い。150mトラックが確保できる。周辺との関係では、敷地北側の住宅に日陰が生じる。といったことが考察されておりました。この時点では、建物配置を大きく変えず、近隣への急激な環境の変化を少なくすることを重視し、仮設校舎を建設しない配置計画を採用いたしました。

5 ページをお願いいたします。こちらは府中第一中学校についてとなります。資料の構成は、八小と同様となります。資料左上の配置計画の考え方をご覧ください。二つ目に武道場及びプールは既存利用する、とあります。基本構想においてA～C案を検討しておりましたが、いずれも仮設校舎を建設する配置計画としておりました。それは武道場とプールの築年数が比較的浅く、その

まま利用する方針であったためです。敷地の北端に武道場とプールがあり、日中の動線を考慮すると、既存校舎の位置に新校舎を配置する必要があると考えていたからです。資料右側のプロポーザル案をご覧ください。体育館の位置を少し南にずらすことによって、新しい体育館を整備した後に既存の体育館を解体する手順とし、仮設体育館は不要な計画となっています。なお、仮設校舎については、敷地東側に建設しています。各項目の考察でございますが、平面計画については、校舎と体育館のまとまりが良い。校庭については、校舎の南側に校庭があり日当たりが良い。まとまった正形となる。周辺との関係については、敷地北東の住宅に日陰が生じる。と考察しております。

続いて、6ページをお願いいたします。こちらは、府中第三小学校についてとなります。改築校で唯一、仮設校舎を建設しない配置計画とした学校となります。資料左上の配置計画の考え方をご覧ください。下から3番目に、「都市計画道路内に新築建物を配置しない」とあります。都市計画道路とは、将来開通する道路の予定地のことで、建築に当たり階数などの制限があります。三小の場合、敷地の北端、JR南武線の線路沿いに都市計画道路の予定地が通っており、既存校舎では北校舎と学童が道路上に重なっています。また、配置計画の考え方の一番下に、「道路中心線から4.5mセットバック距離を確保した計画とする」とあります。都市計画法により開発行為を行う場合は、広い道路幅員を確保するためにセットバックを行います。八小・一中においても開発行為に準じて4.5mのセットバックを行い、周辺道路整備工事を進めておりますが、三小・六小の配置計画の考え方を整理する際にこれを明文化しております。資料右側のプロポーザル案をご覧ください。仮設校舎を建設しない配置計画です。平面計画については、校舎と体育館のまとまりが良い。校庭については、校舎の北側に校庭があり冬に日陰ができる。北側を有効活用することで、まとまった整形の校庭ができる。周辺との関係については、敷地南東側、南西側の一部住宅に日陰が生じる。敷地北東側の既存体育館に近い住宅は現状より日陰の影響が軽減される。といった考察がされています。都市計画道路との関係があること、敷地に余裕があること、また、校庭に校舎の影が落ちることについても舗装の工夫で対応できることなどから、三小においては仮設校舎を建設しない配置計画が採用されました。

続きまして、7ページをお願いいたします。こちらは府中第六小学校についてとなります。資料右下のプロポーザル案をご覧ください。仮設校舎を建設することによって、現在の北側校舎、南側校庭という位置関係を変更しない配置計画となっており、改築前より広い校庭を確保しております。平面計画については、校舎と体育館のまとまりが良い。校庭については、校舎の南側に校庭が

あり、日当たりが良い。まとまった整形の校庭となる。周辺との関係については、敷地の西側にある墓地への日陰の影響が軽減される。と考察されています。なお、基本構想段階のC案、D案は仮設校舎を建設しない配置計画でございました。ただし、C案は校庭について、東側に校舎、南側に体育館があり、日陰でグラウンドが乾きにくいこと。午前中から午後にかけて日陰の時間ができること。不整形である。といった課題がございました。D案では、平面計画についてで、校庭、体育館、プールが分離しており、体育ゾーンとしてのまとまりがあまり良くない。という課題がありました。このような課題をふまえ、総合的に検討した結果、六小では仮設校舎を建設する配置計画が採用されました。

恐れ入りますが、この資料の2ページにお戻りいただければと思います。下段の、仮設校舎を建設しない配置計画を検討する際の「視点の例」は、これまでご説明した改築校の配置計画を決定する過程で重視されていた点をふまえ、一般的な表現で記載したものになります。建物のまとまりや校庭の大きさといった教育環境の質を落とさずに、仮設校舎を建設しない配置計画が成り立つかどうか、このような視点に基づいて総合的に判断したいと考えております。

続きまして、最後のページの8ページをお願いいたします。仮設校舎を建設しない配置とした場合に想定される配慮事項をまとめたものになります。大きく、教育環境への配慮と近隣への配慮に分けて記載しております。

まず教育環境について、でございますが、

- ・校舎が線路に接近した場合には、二重サッシ等の防音対策を行うこと。
- ・南側に校舎を配置し、校庭が影になる場合には、日影の影響を受ける範囲に全天候型舗装を行うこと。これは三小で実際に採用しており、水はけがよく雨が降った後もすぐに活動が再開できるようになっております。
- ・工事期間中も一部校庭が使用できる計画とする。
- ・工事期間中も体育館を使用できる配置及び工事手順とする。
- ・プールを設置する場合には、プールを使えない年がないように建物配置及び工程を検討すること

といった配慮が必要であると想定しています。

次に近隣への配慮についてですが、日影の影響が大きいことから、校舎が住宅地に接近する場合は階数・高さを抑制する、屋根形状の工夫をするなどの配慮を想定しております。

以上の検討をふまえ、見直し後の整備方針と仮設校舎を建設しない配置計画を検討する際の「視点の例」についてご意見を賜りたいと考えております。資料20についての説明は以上でございます。

○会長 はい、ありがとうございます。今、ご説明いただきました様に、この部分は少しちょっと時間を取って、皆さんの意見をお聞きしたいと思うのですが、2ページにあるように、元々の整備方針では、原則として「学校ごとに、校地内に仮設校舎を建設し」というふうに、原則として仮設校舎を造ることを書いていたんですね。ただ、今、ご説明いただいたように、仮設校舎がかなり、改築事業費への影響が大きいということもあって、協議会の冒頭でもご説明もあったように、財政上の状況も厳しいということなので、必ず仮設校舎を造らないという訳ではなくて、仮設校舎が建設しない配置を検討して判断をする、というような記述に改めていくということと、その場合も、検討して判断するための視点を、予めこの様な形で書いておいたらどうだろうか、ということ案として提示いただいているところですので、このことについて、ご質問やご意見等を委員の皆様からいただければと思っています。どなたからでも結構ですが、いかがでしょうか。挙手をしていただいて。皆さん、考えていただいている間に、少し補足的な意見になると思うのですが、これやはり、メリット・デメリットは明らかにあって、やはり、仮設を造る場合は、事業費、仮設ですから、ずっと使わない建物に結構なお金を使わなければいけない。結構大きいことですよね。ただ半面、多くの場合、校庭があるところに、全部は潰さず、部分は潰して仮設を建てて、そこに1回移っていただくので、今、校舎が建っているところに建替えるということが、基本的に出来るということがメリットですね。多くの場合、南側に校庭があって、北側に校舎という構成ですので、建替後も基本的なレイアウトは余り大きく変えないです。多分、校門があって、児童、生徒さんが登校するアクセス路とか、アプローチの仕方も基本的には変わらないでしょうから、同じところに校舎が建ってくれば、同じような形で通学ができるというメリットはあります。ただ、そのために、本当に2年弱位しか使わない校舎に、かなりの多額の事業費をかけていいのか、というのもあるので、必ず、どの場合もダメとか、どの場合もOKという訳にもいかないと思うのですが、いくつかの小学校、中学校について、条件が整うケースというのが多分あると思います。そういう場合は、少し、レイアウトが変わるにせよ、仮設なしでやるという場合のメリットも出てくる場合もあると思いますので、そういうことをしっかり検討できるような記述にしようと思います。取り分け、資料の4ページ、5ページ、6ページ、7ページで、既に建替えの方針が確定しているものについて、事前にどういう検討をされたのか、最終的にどういう建替え案になっているのかということがあって、現在、三小が

仮設無しで建替えが進んでいますけども、この場合は、私の所見を簡単に申しあげると、敷地にかなり余裕がある学校であるということと、敷地がわりかし南北側に長さがある、東西側に長いというより、南北側にやや長さがあるので、日陰の影響を受けにくいと思うんですね、南側に校舎が来てしまったとしても。取り分け、この場合は、北側に都市道路があるので、北側に仮設で建替えたとしても、今校舎が建っているところまで寄せて校舎を建てられないです。セットバックをしなければ。であれば、そちら側に校庭を持って、そのセットバック部分と一緒に造った方が、メリットが大きいでしょう、ということで、このようなレイアウトが実現している部分があります。ただ私の聞き及ぶところでは、このような状況でも、レイアウトは変わってしまうので、周辺の住民の方々からは「あれ、逆になっちゃうの」「元々校庭だったところに校舎建っちゃうの」元々校庭だったところに校舎側になるので、校舎側だったところが校庭になるという変化が出てきますので、やはり、ある程度の違和感を感じられる方がいるので、これも、また後でご意見をいただいて議論ということになりますが、そういう場合も、より丁寧な説明の仕方をするとかですね、そういうことも配慮事項として出てくるのかも知れませんが、そういうことがあろうかな、というふうに考えていたところです。私ばかり意見をしてしまって、一定の方向に引っ張るつもりはないので、先ず皆さんの方から、忌憚のない意見、分からない点があればご質問をいただいて、議論をしていければと思います。

○委員 事務局の方が説明されたように、昔と違って、いわゆる仮設は短期間の建築基準法上の仮設、短期間だけやるので、本格的な基礎は造らないという意味での建築基準法上での仮設校舎を造るという想定ですけども。そういう場合に、これだけの規模の金額がかかるというのが現状で、材料費が当然皆さんご存知のとおり高騰していることと、人件費が非常に高くなっているということなので、規格品を使えば、これだけの金額になるということも、もうこの中では変わることは余りないと思いますので、ちょっと昔を考えると、この金額があれば正直この建物は建ったくらいの金額だったと思います。ここに建物が建つくらい。そういう意味では、1個辺り数十億のお金をかけて建設する時の、大体10%位を仮設に使おうということは、今後、しっかり考えていかなくてはいけないので、ここは、やっぱり仮設を本来造らないで、建設する配置というのを検討することが第一原則かなと思っておりますので。その中で一点だけ、私、個人的に少し気になるんですけども、2ページの工事期間中ですね、下から2行目の「体育館、プールは学童が使えない時期がないように」と書いてありますが、現実的に、これ全部活かしたままというのと、結果的としては仮設を造らないと、敷地に余裕がない学校以外は、ほぼほぼ不可能だと私的

は思うんですね。すぐは答え出ないと思うんですが。特にプールは、府中市さんは、年間10時間ですか。設定が。1つ調査されたかどうか分かりませんが、実際、今、天候が晴れても光化学スモッグが発生したり、実際には、天候が不順だったり、気温が今、昔と違ってズレてきているので、泳げなかったり。屋外プールの場合はですね、実際に泳げているプール時間数を把握されていれば、10時間の内、学校平均何時間位されているかというのが、例えば把握されていれば、教えて欲しいと思います。何を言いたいかというと、そこまで、何億かけて、プールを絶対視してしまうと、その間、極端な話ですが、民間のスイミングスクールに例えば通うとか、或いはタイアップするとか、或いは違う学校に一時的に泳ぎに行くとか。どうしても必要であればそういうこともあろうかな、と私は思うのですが。そういう意味では、ここでマストにしている。プールをマストにしている、というのは、体育館は、文科省上、屋内運動場なので、これはかなり厳しいと思いますが、プールとかをマストにしまうことが、本当に今後の計画上、配置上良いのかどうかというのは、個人的には非常に疑問に思っているところなので、意見を述べさせていただきました。以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。今の点、いかがでしょうか。

○事務局 第4回の時にもプールの水泳指導の件についてお伺いを受けたところですが、10時間程度実施をしてください、ということで学校の方にはお願いをされていて、学校は10時間を確保できるように、計画ではもっと多めに計画をされていて、14時間、15時間を計画している中で、例えばWBG T 3 1度以上だからできない、という日は順延をしながら、実質10時間程度確保いただくように、学校の方には努力をいただいているところです。

○委員 そうすると、9月まで泳ぐということは、基本的にないでしょうか。詰め込んだプールという指導には現実になっていないのでしょうか。本当は段階的学習がみたいなのができているのか、ということでしょうか。

○事務局 今、2学期も9月いっぱいぐらいまでは、実質学校ではやっていたいております。ですので、6月から9月の約3ヶ月の中で10時間程度ということになります。

○委員 あとあとの議論で、子供たちが感動している施設がプールだったので、プールをいじめるつもりでもないのですが。とにかく、建築的には維持管理コストが非常にかかる施設。あるいは、イニシャルコストも莫大にかかる施

設なので、ここで、工事期間中にマストにすることが本当に良いのかというのは、事務局の方で考えられても良いのかと思った次第です。1つの意見ということです。以上です。

○会長 はい。プールに関しては答えられますか。どうぞ。

○事務局 1点補足なのですが、今、使えない計画とするものに体育館やプール、学童とかを書かせていただいております、そのうち、学校で使うものとして体育館とプールというものがあります。体育館については、ご存知のとおり避難所になっておりますし、体育活動で使うこと含めて、使えない計画がないものとして、必須なのかというふうに思っております。これまでの4校では、プールについても、同じようなことで、使えない時期がないようにということでやってきていたんですけれども。実は、今回、三小と六小それぞれが改築のスケジュールが埋蔵調査の影響もあって、3ヶ月間延伸になっています。そういった中で、三小の建替えの計画として、プールの建設時期について、来年度の夏休み以降から使えるような計画を立てていたのですが、配置上それが難しいという状況になっておりまして、現在、どのように来年度の三小のプールの場所を確保するかというのが検討課題となっております。一応、今、いくつか案は立てているのですが、近隣の学校を使うとか、民間のプールを借りて行ってみるとか、公共施設のプールを活用するとか、という案をいくつか考えてみながら、改築時期にプールが使えない状況がないような形での代替案を今検討している状況なので、そういったことを考えますと、必ずしも学校の中だけでプールが改築中に完結する必要があるのかというところは、また、この三小の事例を見て、検証できればと思っております。具体的に、また今後プールが各学校に必要かどうかという議論というのも、別に議題を設定させていただこうと思っておりますので、そういったところも複合的にまた議論できればと思っています。以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。今、事務局からも説明があったように、プールについては、また別の機会に議論する場面があると思いますけども、委員の意見の要点としては、仮設自体も限られた時間しか使わないものなので、そこにそれだけのコストをかけることにメリットがあるのかと。プールも非常に限られた時間しか使わなくて、稼働率が非常に低いことに対して、コストをかけるメリットがあるのか。場合によっては、校地に余裕がない時は、体育館の上にプールを乗せたりとか、それはそれでコストアップにもなってきたりするので、その辺はしっかり点検をしていく。財政上の工夫をするに当たっても、バランスの取れた点検が必要だろうということかと思っておりますので、そ

の辺りは、ぜひ参考にしていただければと思います。委員、よろしいでしょうか。

○委員 はい。

○委員 説明ありがとうございました。仮設も検討の余地に入れるという案としては、私はよろしいのではないかと思います。私が関わっている学校の建設に関わる公共事業は、今のところ全て仮設無しでやっている工事が殆どになります。やはり、都心で学校の数が多いので、やはり予算を考えてそういう形を取らざるを得ないというところが増えていると思いますが。やはり、問題になるのが、その時の提示する条件ではないかと思います。今、表示されているところに「視点の例」ということで記載がありまけども、児童生徒の教育に影響を与えないということはもちろんの事だと思いますが、やはり近隣への影響ですとか、子供たちの学習環境に対する影響という面でも、かなり丁寧に条件を整理しないと、結果的に、子供たちにとってネガティブな結果になり兼ねないので、そこは慎重に議論、整理が必要だというふうに思いました。それで、今回、事例を3つお示しいただいたので、非常に分かりやすかったんですが。例えば、横浜市であれば、仮設がない状態で建替えの案が検討されているという事例が殆どですので、そういった先行事例で起きている問題をヒアリングされた方がよろしいのではないかと思います。その様な事例収集をしているかというのが質問の1つです。私の方で、通常仮設無しで、校舎の建替えを行う時に気になっている点を何点か申しあげますと、まず、よく議論になるのは、避難動線がちゃんと確保されているかというのが、よく議論されています。横浜市は、特に丘陵地といいますか、崖地が多いので、そういった話になるので、府中市が今のような話に当てはまるのか分からないですが、その点はよく議論されます。それで、住民の方がきちんと避難出来るような経路が確保出来るのか、児童、生徒はもちろんなんですが、そういった議論がよくあります。それから、日影の話、近隣影響の話で言いますと、日影の問題がある、ないという検討をされるという話があったのですが、今まで校舎がなく、校庭だったところに校舎が建つということは、圧迫感もそうですし、音の影響もありますし、通風も阻害されるという意味では、近隣の住民にとっては、かなり環境が悪化する方向になるかと思います。それを受けて、窓が開けられない学校というのが結構増えてまして、近隣影響に配慮して窓が開かない、もしくは、開けられないようにストッパーがついている。そうなった時に、コロナのような感染症が起きた時に、換気量が足りないという話も出てきましたので、窓は適切に開けられるような開放出来るような設計も配慮として必要なのだろうと思いました。後は、通常、南側に向いている校舎が多いようですが、それが

北側向きになる訳ですよ、校庭側に造られる場合。ケースバイケースだと思いますが。例えば、それがL字型で西日も入りやすい校舎になってしまいか、配置が変わったことによって、教室の日照条件がかなり変わります。そうすると、空調負荷にもかなり影響しますので、維持管理ということを考えた時に、本当に適切かどうかというのも考慮の1つに入れていただくと良いのかなというふうに思いました。気になった点は以上となります。

○会長 はい。今、いただいた意見で、仮設なしで建替えを積極的に行っているところへのヒアリング等の実施、既にやられたか、今後の計画などを含めて何かご回答あればいただけますでしょうか。

○事務局 はい。色々、事例は改築に当たってさせていただいております。見学もさせていただいている中で、仮設校舎を建てない学校についても見学をさせていただいたり、そういった場合も、新しく出来た校舎の方を見させていただいている状況でございます。ただ、今、お話いただいたような横浜市さんのように、既に仮設を建てないで造り続けている事例の多い市町村に行って、どういうふうに継続をしているかというお話を伺ったことはありませんでしたので、そういった事例もあるということで、また、ヒアリング等させていただいて、研究していきたいと思えます。以上です。

○会長 はい。多分、私も、余りその辺の事例を詳しく存じ上げないのですが、仮設は、そこまで厳しい方針ではないかも知れませんが、原則建てないような方針にすると、それによって、多分、建て方というか、配置計画の制約を受けるので、今、委員からのご指摘があったように、周辺の近隣の住宅地等に対しての圧迫感や音があったりとか、結果として、余り窓があまり開けられないという条件が出てきたり、教室への日照条件が変わったりということがあると、他方で建替えた方の学校もその後50年以上使うわけでしょうから、それが、全部固定してしまうということがあるので、必ず、片方がどちらというのは言えないと思うのですが、検討するということがいいにしても、判断する時は、ジャッジする水準をどの位に設定するのかというのを、色々意見があろうかと思うのですが、その辺りいかがでしょうか。特に、教育現場に関わっている先生方からも、少しご意見等をいただければと思うのですが。

○委員 教育委員会だとか先生たちが、抵抗があるのかもしれませんが、仮設を全て計画とおりに建てるとかじゃなくて、先ほどの鶴見もそうだと思いますが、学年で、例えば1、2年生だけ隣の学校に、卒業が間近な上級生は隣の中学校で受けて貰うとかね。そして、キャパシティの問題があるのであれば、そ

の分だけ仮設を建てる。要は、今まで建っている学校自体が1番良いところへ建てているのだと思うんです。ただそうではなくなったというのは、その後、建築確認が取れなくて、同じところには建ちません、というの、というには聞いているのですが。それ以外のところは、やはり1番良いところに・

戻す。あと、仮設の問題もやるかやらないか、統廃合で別れてきたように、僕らも九小から別れてきたり、七小から別れてきたり、五小から七小に行ったり、中学はゆくゆく卒業すれば、中学へ行く訳ですから、そういった分散的なことも考えて良いのではないかと思います。以上です。たださっき、校長先生達が言ったのは、小中の先生達がちょっと嫌だよ、と言う可能性はあるのかなというのはあったので、余談ですね。以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。今のは、ご意見ということでよろしいですかね。恐らく今、建替えの対象になっている学校というのは、約50年位経っているので、基本的には「南側に校庭を取って北側にかまぼこ型」というか、割と普通教室が並ぶような形の片廊下の構成で造っている学校が多いと思いますので、それ自身、仮設をしてやれば、それに近いような形になると思うのですが。仮設を取らないとなると、今度、三小が出来てくると、こうなるのかというイメージしやすくなると思ったのと、条件も変わるかと思うので、その辺りに対する考え方とかいかがでしょうか。

○委員 この話題はスルーしようかと思っていたんですけども。まずは、大雑把に言いますと、日当たりというのは子供の成長にはとても影響が大きいというふうには、これはもう皆さん感じるかと思います。ですから、校舎の配置、校庭の配置によって、どういう様子が他にあるのかということは、照度的な面で電気と全く違いますので、影響は非常にあるということは間違いない。皆さんも感じているとおり、間違いないと思います。ですから、条件というのも難しいんですが、これだけ費用が掛かるんだということも、私もこの資料を見てわかりまして、ただ、必ず建てないとか建てるいうふうに決めてしまうのではなくて、敷地の形状だとか日当たりがどうなんだとか、そういう事も踏まえて、決定していくという方向がよいのではないのかと思っています。その条件というところで、今、今後のという8ページで示していただいているのは、非常に大事なことだなと思っていますが、どちらかと言うと、2ページについても8ページについても、校庭や校舎の日当たりについては、特に触れられていないので、そこを上手く入れていただくというのも大事なだなと思ひまして考えています。

○会長 ありがとうございます。今おっしゃった、言いにくい事もあると思うんですが、多分、校庭が屋外空間なので、一見建物が建っていない残余のように思われるかもしれませんが、学校施設では非常に重要な屋外の教育施設でもあるので、その形状を大きさだけでなく、日照条件なども非常に重要なことではないかと。あと、だから、これは残念なことですけども、学校施設に対して音で近隣から苦情がくる、要するに例えば、校庭の位置が変わる事によって、今までそんなに校舎でうるさくなかった近隣の方のところに直接子供たちの遊んでる時の声がいつてしまうことによって、逆に苦情がきて、それが抑制されることになったりすると、それはそれでちょっと困ったことです。そういうことが起こるか起こらないかはわかりませんが、それは校庭についてもそういう意識をもって、大きさや形だけでなく、日照条件とか近隣との関係とか、少し丁寧に見ていただくということも必要なのかなと、今ご意見をいただいて思いました。よろしいでしょうか。その他、先生どうぞ。

○委員 です。まず、仮設校舎については、2ページに書いているように原則としてはやはり敷地内で丸めるということの方針においては、先ほど先生方からも出ていた、まとまった成形だったりとか、日照の確保だったりとかも、最低限のことですので、それを教育的に配慮ちゃんとできるようにという、視点の例としてももう少し丁寧に整えていくとしても、現在の建物配置を変更するうんぬん部分については、異論がないというか、異論の言いようがないというかなというふうに思うのが1点です。一方で、先ほど委員の方からでも話題にありましたけれども、例えば部分的に他の、部分的に仮設期間だけ連携する、事業を連携するというのはだいぶ先の計画であれば今のうちから立て込めるんじゃないかなというのがまず1点と、もう一つは、仮設校舎を仮設化しないという考え方があるんじゃないかなというのがありまして、いわゆる仮設校舎というのは、最初は仮設校舎なんですけど、子供たちの教育の場として使うんですけども、それが終わった後は、地域向けの別の施設をそこには組み込むんだという設定があれば、最初からその予算を投入する、という考え方もある、つまりリノベーションすることも含めた作り方が、先ほどの議論の中にもあったので、それって、長期スパンで見て、計画を立てれば、例えばこの後出てくると思いますが、複合化の話題だったりとか、施設の統合だったりとか、その中で、少し先のビジョンの中でそれが可能になる地域、というか、小学校と中学校みたいなものが出てくるのであれば、それも一つの考え方かなと思うので、今回どうしても仮設の校舎のことで、子供の仮設として、原価償却するイメージなんですけども、そうじゃない方針も、場合によっては場所にしてあり、それも場合によっては設計者の選定の中で、提案の中で入れていくという

方法もありなのかなと思いながら、今まで議論を聞いていて思いました。以上です。

○会長 はい。今いただいたご意見について、何かコメントされることはありますか。よろしいですか。これは多分、次の議題とも少し関係することだと思いますけども、かける事業費は数字で、それに色がついている訳ではないので、圧縮できた分は外で効いてくる訳です。ただ、仮設にするにしろ常設で使い続けるにしろ、複合化するにしても全てのキャパシティを多分そこで賄えないので、恐らく仮設期間中の変則性って増すんじゃないかと。だから、その分、その間の建替え期間中ですけど、何か上手く工夫して、ちょっと学校の分の教育現場の方には少しご苦勞をお掛けするかもしれないけど乗り切っていただくというのにも必要になってくるかもしれないので、それがうまく行って、色々なところで、そのパターンが使えるようになれば、全体としては、多分事業の圧縮に効いてくると思いますので、その辺りの検討していただければと思います。

○委員 追加で。今の話は、例えば先ほどの敷地内で、例えば校舎を転換すると、何となく近隣からの苦情がある、という話があったかと思うんですが、むしろそういう機会を地域の方々と対話するような形にしていくことで、場合によっては、仮設のところが地域に開放されていくというプラスの部分だったり、或いは、逆にそこが将来的に、もしかしたら子供の校舎が、自分の方にくるかもしれないけど、容認されていくとかですね、そういうコミュニティの方々との対話する一つのきっかけにもなるかもしれないので、その辺りも込みで、そういう事業を超えた複合化のところに仮設校舎の転用みたいなものを考えるのも一つかなと思いましたので、そちらも加えていただきたいと思います。

○会長 はい。ありがとうございます。多分、これはあれですよ。プロポーザルで設計者決まって、基本計画でほぼ変えられないようになってから説明に行って、「え、逆なの」となるとかなり厳しいので、もしかしたら、どのタイミングがいいのかわからないけど、前の段階で、色々、近隣の住民の方々とも対話をする機会を作る、多分、その地域の学校ですし、今回、防災的な事も従前から書いてますので、何かあった時には、被災時には皆さんも使われる施設で、そういうことも整えることも併せてやるんですよ、ということをちゃんと周知しつつ、色々なレイアウトの可能性があるので、今のレイアウトが固定施設と変わらないと決まっているものでもない、ということを少し理解していただくと。条件が整ったところは、やはり仮設を造らない、ということになる可

能性が高いので、その場合の心づもりを上手くしていただく、その辺のプロセスも少し工夫していただく、みたいなことを考えていただくといいのかなと、今の意見を聞いていて思いました。

○事務局 補足なんですけど、先ほどの仮設ということなんですが、費用面の話も今させていただいたところなんですが、実際リースでこの金額でして、実際、建築基準法とかそういったところでは、仮設の期間が1年8か月だとか、2年ということでございますので、最後、費用的に本設の校舎と丸つきり変わらないものが建てられています。実際、軽量鉄骨造のほぼ本設の校舎とほぼ同じ校舎が建てられて、リースなので金額これだけ抑えられる訳なんですけれど、我々、建てあがった時に見に行くと、お子さんたちが新しいの造ってくれてありがとうございますと言われちゃうんですけど、そうじゃないんですよ、とはちゃんと説明するんですが、やはり照度であるとか、冷暖房であるとか、そういった機能が通常のところと全く同じものになっておりますので、確かにちょっと敢えて踏み込んで、今回ご紹介させていただきたいというふうに思います。以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。発言していない方々も含めて、ご質問やご意見などあれば。はい、よろしいでしょうか。あと、これも若干補足ですけど、4ページ、5ページを見ていただくと、特に、多分、八小なんかは出来上がったものを見ていただいていると思うんですけど、同じスケールじゃない。校舎が同じ大きさなので、多分、左側のプロポーザル案、検討案はわりかし拡大して書かれているので、実際の敷地は、右側に比べるともっと小さい。なので、敷地も小さくて、校庭をちゃんと取ろうとすると、多分ほとんど選択肢はなかったのかなと。だから、こういう時の場合は、典型的には、仮設を作らないと上手くいかない。一中は、実はこれ敷地も大きくて南北に長いので、プロポーザルの時に仮設を作らないで、南側に校舎を作って、という案を出された事業者さん、設計業者がありました。ただ、この場合は、プールと武道館をそのまま残すので、そこちょっと離れてしまった。色々な状況もあったので、今回は、ここは仮設を作って、前回も原則そのようになっていましたので、そういう方針にしたので、もしかしたら、こういう、これに近いような条件のところは、もしかしたら次回以降は、もう少しきちんと検討した上でジャッジしてる、ということになるのかなというふうに考えています。ということで、今回、提示していただいた案は、このような形なので、条件を整えばということで、それをあと必ず建設しない場合の検討をして、ジャッジをするということが原則になる、ということでご理解いただければと思います。よろしいでしょうか。では、特に他の意見ございま

せんので、議題（２）の審議はここまでにさせていただきます。それでは次に、議題（３）の「地域開放・複合化の方向性」について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、議題（３）「地域開放・複合化の方向性」について説明します。「資料２１ 地域開放・複合化の方向性」をご覧ください。

現計画における地域開放・複合化に関する主な整備方針を記載しています。一つ目が、学校施設の地域開放や他の公共施設との複合化、児童・生徒数の増減も視野に入れ、教室配置や改修などについて、柔軟かつ適切な対応ができる学校づくりを目指します。

二つ目、学校施設の地域開放の拡充の範囲は、災害時の利用も想定し、新たに多目的ルーム・家庭科室・会議室・和室を開放します。

三つ目、学校施設に複合化する施設は、学童クラブと放課後子供教室を基本として、その他の公共施設についても、状況に応じて検討していきます。

四つ目、地域開放時や避難所運営時に、児童・生徒の安全確保や学校が保有する個人情報を守ることができるようセキュリティに配慮する。でございます。

下段になりますが、こちら用語の確認ですが、「地域開放」とは、学校教育上、支障のない範囲で、学校施設を地域住民に開放することで、本市では児童・生徒が利用する教室・校庭・体育館・武道場等を地域住民も利用しています。「学校施設の複合化」とは、学校と同じ敷地内に、学校以外の別の施設や機能を設置することであり、児童・生徒が学校に通っている時間帯においても地域住民などがその施設を利用することができます。

１枚おめくりいただき、２ページをご覧ください。ゾーニング、時間帯・場所別の立入りエリア設定の考え方を整理した表です。表の、縦軸は、利用エリアを示しており、横軸は、誰がどのような目的で使用するかの時間帯と、そのエリアがどの場所になるかを示しています。平日夜間の時間帯は地域開放を行う午後５時から９時、土日祝は午前８時から午後９時をイメージしています。まず、Ａの学校が利用するエリアは、平日の日中は、学校教職員と児童・生徒が、学校内の全てを利用しています。平日夜間、土日祝日は、利用をしていません。Ｂの地域開放エリアでは、平日日中は児童・生徒が授業のため、利用しています。平日の夜間、土日祝日は、部活動で児童・生徒、または、地域利用者が利用していますが、立ち入りできる場所は、校庭、体育館、校舎内では普通教室・管理諸室を除いた、特別教室・会議室等となります。Ｃの災害時開放エリアでは、非常時に、避難者が利用することになりますが、場所は校地を指定避難場所として、体育館を一次避難所として、校舎内でも主に１階を一次避

難場所として開放するということになります。普通教室・管理諸室は立入りできません。Dは複合化施設の利用エリアで、地域利用者が学校運営の時間帯に関わらず、常時、出入りしています。場所としては、地域利用者は学校施設内には立入りせず、複合化施設のみを利用することとなります。平成29年度の協議会での議論の結果、多目的ルーム・家庭科室・会議室・和室の4室を発災時に避難所としても開放することとしました。その結果、改築校では、Bの学校開放とCの避難所開放の範囲は一致することになりました。

3ページをご覧ください。開放施設に関連する動きを示した図です。開放施設として体育館・体育館等を開放していたところ、令和元年度に現計画を策定し、多目的ルーム、家庭科室、会議室、和室の4室を新たな開放施設として拡大することを決定しました。令和6年度以降の開放開始を目指し、現在準備中です。その後、令和3年度に第3次公共施設マネジメント推進プランが策定されました。このプランではモデル事業6として「地域対応施設の機能連携と複合化」を進めることとされていますが、具体的な検討時期は令和6年度から7年度にかけて行われる予定のため、本協議会の最終回である第10回・令和6年7月になっても、公共施設マネジメントの結論は出されない見込みです。このような、いわば「待ち」の状況ですので、市としては現時点で開放施設の更なる拡大を検討するよりも、先に拡大を決定した地域開放4室の活用方法について、ご意見をいただきたいと考えております。

例えば、本協議会第1回で委員からご意見をいただいた幼保小連携の視点もあるかと思います。改築校の整備状況等の資料をご用意しましたので、現状をふまえてご意見をいただきますようお願いいたします。

4ページをご覧ください。公共施設マネジメントの動きです。令和4年1月に、「第3次府中市公共施設マネジメント推進プラン」が策定されました。第2次プランでは「モデル事業2」として、「学校施設の更なる活用」が掲げられ、地域プールと機能が重複する学校プールの活用が検討され、結果として、府中第十小学校・府中第十中学校のプールを試行的に開放することが決まりました。

第3次プランで追加されたのが、モデル事業6「地域対応施設の機能連携と複合化」です。

・府中市学校施設改築・長寿命化改修計画に基づいた更新を行うに当たり、周辺公共施設との連携や複合化を検討し、地域拠点としての学校の実現を目指す。

- ・新たなニーズが生じた場合には、更なる施設開放の可能性について検討する。
- ・周辺公共施設との複合化に合わせ、効率的な施設管理手法を検討する。

事業の効果として、一体的かつ効率的な建替えにより、更新費用や建替え後の維持管理費用の削減等を期待する、といった内容になります。

このモデル事業6の検討スケジュールについては、令和6年度に対象施設の決定及び機能連携や複合化について検討、令和7年度に対象施設の機能連携や複合化について検討することとしています。

続いて、5ページをお願いいたします。5～8ページまで、各改築校のゾーニング図を掲載しています。5ページは八小のゾーニング図です。平面図を色分けしており、普通教室を青色、特別教室を灰色に赤枠、校務センターなどの管理諸室を灰色に紫の枠、開放諸室を黄色で着色してあります。下段1階の開放諸室と管理諸室の境目に赤い点線を引いておりますが、こちらは学校と開放ゾーンとを物理的に区画し、施設利用者の動線を分けるためのセキュリティラインを示しております。八小の場合は、可動式のシャッターで区画できるよう整備しております。八小は体育館と校舎の間に地域開放玄関を設け、入って右手に家庭科室と和室、PTA室、左手に多目的ルームと会議室を配置しています。学童は体育館に複合化されております。なお、地域開放玄関に受付はありません。他の改築校も同様となっております。

続いて6ページをご覧ください。一中のゾーニング図です。資料左下、和室は体育館内に配置されています。他の地域開放諸室は校舎に配置されており、地域開放玄関から校舎に入って左手に多目的ルーム、奥に会議室と家庭科室があります。区画扉は、かしの木ホールにつながる廊下に設置しています。

7ページをご覧ください。三小のゾーニング図になります。下段1階の東側に体育館と開放諸室及び学童、真ん中白い部分のピロティを挟んで、西側に管理諸室と一部の特別教室、2階・3階に普通教室と特別教室を配置しています。

8ページをご覧ください。六小のゾーニング図です。下段1階の東側に学童を単独で配置、ピロティを挟んで西の校舎の北寄りに開放諸室、南寄りに管理諸室と特別教室を配置しています。2階に普通教室と特別教室、3階に普通教

室を配置しています。3階については、議題1の7ページでご説明した、将来の用途転用を想定した範囲となっております。

続きまして、9ページをご覧ください。学校開放施設の一覧を参考に掲載しました。主な開放施設は体育館と校庭で、すべての小中学校で開放しています。中学校には武道場がありますが、すべての中学校で開放しています。その他の施設については、設備が整っており、かつ区画を分けられるなどの条件が揃った施設が開放されているという状況となります。改築校4校については、家庭科室・和室・多目的ルーム・会議室に△印をつけておりますが、令和6年度の開放開始に向けて準備中、または工事中であることを示しています。十小と十中のプールについては、公共施設マネジメント推進プランのモデル事業2で開放を検討した結果、夏休み期間中に開放を試行実施しています。

10ページをお願いいたします。9ページでお示した開放施設と、学校以外の公共施設で類似した機能を有している部屋とその稼働率をまとめたものになります。稼働率については、直近のデータは令和3年度ですが、コロナ禍で稼働率が落ちている期間ですので、コロナ前である平成30年度の稼働率も掲載しています。例えば、学校の音楽室と類似している施設のうち、No. 6の市民会館音楽練習室の稼働率は、平成30年度は86.9%、令和3年度は65.2%です。稼働率につきましては、団体貸切可能なコマ数を利用コマ数で割り返した割合です。貸切可能なコマ数が100で利用コマ数が70であれば、稼働率は70%ということになります。施設によっては、貸切利用と並行して一般開放を行っている施設もあります。例えば、でございますが、No. 12の生涯学習センター温水プールは、平成30年度の稼働率31%で4,146人ですが、主催事業・一般開放の利用人数が79,466人で、貸切利用の人数を上回っております。全体的な傾向といたしましては、音楽室と会議室・多目的ルームに類似した施設は稼働率が高めで、家庭科室に類似した施設は稼働率が低めになっております。なお、開放施設に家庭科室を整備した背景は、需要が見込めるからではなく、発災時に避難所として利用するためとなり、日常時から地域に利用されることで、防災上の目的達成の確度が上がることも期待して、地域開放施設に加えた経緯がございます。

11ページをご覧ください。市内の子育て関連施設が学校開放を利用した状況をまとめたものです。資料左に、令和5年4月から12月の利用回数の表を掲載しております。合計12回の利用があり、利用目的はすべて運動会のためでございます。資料右の地図に、どの施設がどの学校を利用したかを示しております。二重線で囲った学校に向けて、利用した子育て関連施設から矢印を

伸ばしています。これを見ると、基本的には近くの学校を利用していることが分かります。

次に12ページをご覧ください。12～13ページは、他自治体の地域開放・複合化の事例を参考に掲載しております。初めに12ページは、東京都千代田区 千代田区立昌平小学校の事例です。資料左中段の地域開放エリアの欄をご覧ください。学校の施設として、特別教室・体育館・図書室・プールを開放しています。また、児童館・幼稚園・保育所・図書館を複合化しております。セキュリティ動線としては、各施設は専用の出入口や階段・エレベーターを整備することで管理区分を明確化しています。不特定多数が利用する学校開放用の出入口には警備員が常駐し、出入の管理を実施しております。

続いて右側13ページをご覧ください。東京都目黒区 目黒区立碑小学校の事例です。資料左中段の地域開放の欄をご覧ください。学校の施設として、体育館を開放しているほか、地区プール・区の出張所・地域包括支援センターを複合化しています。セキュリティ動線として、敷地入口・建物入口・内部動線を全て明確に区分しています。また、小学校のうち学校開放をするエリアは1階の北側に集約しており、学校開放時には小学校の教室・管理室エリアへつながる扉を遮断し、施設利用者は出入できないようにしております。

資料21についての説明は以上です。令和7年度に公共施設マネジメントモデル事業の方針が打ち出された後で改築する学校につきましては、他自治体の事例で挙げたような複合化を求められる可能性があります。現状は動きがございません。今できることといたしましては、開放を準備している家庭科室等の活用方法を検討することと考えておりますので、皆様のご意見をいただきますようお願いいたします。説明は以上でございます。

○会長 はい。ありがとうございました。この3番目の議題は、地域開放複合化ということで、資料21の1ページにあるように、今の整備方針をこのような形で書かせていただいて、現在まで改築が進んできている学校では、これら4室を災害時の利用を想定して開放できるように整備をして、これから地域開放の準備を進んでいくということですので、こういう状況を踏まえて、今後の計画改定にどのようにしていくかということも含めて、ご質問や少しご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。あの、多分、以前に委員からいただいたよう幼保小連携の話とか、先ほど前の議題の方で出てきた複合化の話とかもここで扱える部分もあるかと思うので、何からでも結構ですので、ご意見ご質問あったらよろしくお願いします。

○委員 はい、資料を見せていただいてありがとうございました。まず、今、4室地域開放されている多目的ルーム、これ、あれですよ、本とかが、多目的ルームというのはどういう感じでしたっけ。一度、確認させてください。

○会長 平面図が5ページ以降出ていますので、5ページ、6ページ、7ページ、8ページで、既に竣工した2校、現在、整備中の2校のプランでこんな感じになっています。

○委員 多目的ルームって、多目的なので、何でもありの会議室のように見えるんですけど、それで正しかったですか。それでよろしいですか。4つについての地域開放については、多分、地域の方々の使い方、どちらかと言えばマネジメントも、まだこれからなのかもしれないですけども、例えば、誰がどうやって鍵を管理するだったりとか、或いは、発災時はどういうふうに管理をするのかとか、その辺りは追々という感じかもしれませんが、意外にあの細かく大事なことで、日常的に地域の方々が稼働しないと、発災時になかなか稼働できないというのがありますし、日常的に出入りしてもらわないと、子供たちも、なんでそこずっと開いているんだろう、みたいな感じになってしまうので、その辺りはもしかしたら作ったあとのマネジメントの体制がこれから4つのところを丁寧に抑えていくというのが1つあるのかなって言うふうに思っております。ただの課題的なことです。

それから、私、実は東日本じゃなくて、阪神の大震災の時の震災復興中学校を検討した際に、あの時にはですね、家庭科室もそうなんですけど、技術室を入れてたんですね、地域開放の多目的ルームというのが神戸はなかったのも、概念的には完全に学校の施設としてオンにしたかったのも、当時は。どこからどういうふうにまさに開放シャッターで分けるみたいな話になった時に、技術室は入っていた記憶があります。家庭科室は、調理道具があつたりとか、あと和室なんかは、例えば授乳をする方だったりとか、赤ちゃんを遊ばせたりとかですね、或いは少し救護が必要な方とか、少しそれは一次避難所の運営計画の中で、まず、開放される諸室の使い方も一緒にマネジメントの中で整えていく必要があると思うんですが、もしかしたら、その辺りが議論としては、発災時の運営地域の方々の中で、これらの諸室の稼働の方法論みたいなことを、なるべく丁寧に詳細に考えていく必要があつて、それも含めた時に、もしかしたら特別室でももう少し柔軟にできる諸室があるのであれば、あり得るとしたら、工具等をちゃんと鍵がかかるように施錠しておけば、技術室等は開放していけるのかなというふうに思ったりしたのが2点目です。

それから、ちょっと観点が変わるんですけど、幼保小連系の話と発災の話だけじゃなくて、幼保小連系の話だったりとか、あと、もしかしたら中学生の話になるんですけど、音楽室ってすごくニーズがあるんですよね。学校の防音のところとか、逆に10ページのところで、音楽室非常に稼働率が高めで、楽器をやったりする子供、中学生が意外に難民になっていて、お金もかかるし、児童センターみたいなところも予約がいっぱいだったりとかいうのも、他都市でもよく話を聞いていて、仮に、今、学校の方で、学校の授業時間外の例えば平日の夜間とか土曜日とかの、もしかしたら学校開放の中に、そういう子供たちの部活動じゃない音楽活動みたいなのは、ありなのかなと思いついておりました。ただそれは、もしかしたらニーズがあるのかもしれない、ニーズを丁寧に捉える必要はあるのかもしれないのですが、その場合は、楽器庫、区分をしっかりと、簡単に言えば、防音の部屋だけは貸せるよ、というふうなやり方は、計画上はあり得るんじゃないかなと思ったのがあります。それから幼保小連携については、今の諸室みたいな、例えば「家庭科室で調理を一緒にしよう」みたいなのだったりとか、年長者にあげるかもしれないですし、和室とかで、例えば、赤ちゃんを連れてきたお母さんと保護者が、中学生とか小学生と触れ合うみたいな事というのは、益々ニーズとして高まってくると思いますので、その辺りは、和室って何となくお茶の授業みたいな、そういうふうにする、教育機関だとそういうところが多いみたいで、横浜でも過去に地区センターに和室があったんですけど、赤ちゃんの使用は禁止という、よく分からないルールがあったのを、お母さんたちが和室は子供の子育て支援の場でも使わせてください、というのを折衝していたという経緯があったと聞いていますので、そういう意味では、例えば和室の建具とか、少し小さい子だとちょっと障子破いちゃったりとか、そういうことがあり得る、そこに対して対応をしておけば、そういう未就学児の利用に適する場である可能性もありますし、小学校の校庭を運動会に使うというのはどこも絶対あるんですけど、場合によっては体育館というのも、お休みの日とか、暑い日だったりとか雨の日でも必ず実行できるって意味では相当ニーズが高いと思いますので、その辺りの可能性としては、幼保小連系は確実にこれから出てくると思いますので、視野に入れていただきたいというふうに思いました。あとは、少し最後の他都市の事例で、先ほどもちょっと話題に出しましたが、これちょっとどちらかといえば複合化の話なんですけども、これはやっぱり指定管理の関係だったりとか、学校の地域の方々が使う鍵の管理だけじゃなくて、指定管理をどうするだったりとか、そういう話が、これは文化センターみたいなものをどう入れるか、他の合築する、複合化する用途によってくるとは思うんですけども、その時に、意外にガッツリ分けすぎると、中で縦割りになって連系が全然できない、ソフト運営ができない、みたいな話もありますので、確実に指定管理だったりとかが発

生してくる場合は、やはり当事者である何々小学校の先生方と、指定管理の方々が、施設についてのマネジメントの例えば運営委員会みたいなものを作りながら、しっかりと日常的にそういうことをやっていこう、場合によっては文化祭を一緒にやろうとか、そういう事だって多分出てくると思いますので、複合化を、単純に箱をがっちゃんこする、いう考え方ではなくて、そこに集う人を混ぜ合わせるという意味合いでのマネジメントというものを、割と優先的に早めの段階で盛り込んだ計画というのが複合化については必要かなと思っております。ちょっと、ざっといっぱい言ってしまいましたが以上です。

○会長 はい。色々意見をいただきましてありがとうございました。何か、今いただいた意見等について、何かコメントされることはございますか。あの、先ほど技術室を開放区画に置いてというプランニングをされていましたが、それは主に利用目的はどんなイメージなんですか。

○委員 具体的にいうと、神戸の渚中学校というところなんですけれども、そこはですね、パイプシャッターで区切った向こう側の体育館の真横に、特別室が4つ全部くっついてまして、恐らく家庭科室と同じように技術室の中で、例えば、少し発災時の廃材を使って、何か物を新しく作っていったりするような時に、なんかそういう道具だったりとか、そういうものも発生するかな、というので、いわゆる小学校で、長期、もしかしたら、今の能登もそうですけど、過ごすことになった時に、生活的な道具で、みたいなものが技術室にはある訳ですね。それは、いつも使う訳ではないので、発災時には、鍋とかそういうものだったりとか、道具でみたいな、いざとなったら学校の施設のものなんだけど使えるよ、と言う事と、そこまで土足で入っていけるというような意味で、1階の部分に入れたという経緯があります。神戸震災の時には。なので、計画上のところでは非常に今そういうものが1階にあったりして、理科室とかそういうのは、余り入る事はないと思うんですけど、特別室の中でも、家庭科室だとか、技術室というのは生活と密着したものが置いてある、道具だったりとか、資材だったりとかもありますし、いざとなったらそれが開放されるというのが理にかなっているのかなというふうに思います。

○会長 はい。ありがとうございました。恐らく、今、整備している4室でも、整備済みのものはちゃんとそういうプランニングになってきて、セキュリティラインもやっているのので、普通であれば、並びを変えてセキュリティラインを設定し直せば、それ自体は出来ると思うのですが、先ほどご意見があった音楽室なども含めて、要するに開放して、物が置いてあって両方に使うということになれば、機材とかの管理上の多分工夫とかストレージエリアをちゃんと

用意するという、その部分のことが加わってくるのと、当然ながら開放する部屋になってしまうので、学校の側の先生方、多分、利用面の両方に使えるようなことに対応できる、という、そっちの運営上の課題みたいなものも対応していかなければならないと思うのですが、その辺りも含めて、もし何かご意見があれば。

○委員 今、お話しあったことは、とても私も大事な事だなと感じて聞いておりました。まず、一つは、学校が音楽室の話を特に言いますと、音楽室を借りたい、という声は結構あります。ただ、学校の音楽室って結構上の方にあたりとか、管理上の問題として、例えば夜だとか、土日に使いたいという申し出があっても、例えば管理職だったり、誰かが来ないと使えない、という配置にはなっているので、工夫によっては開放できる余地のあるもの、というふうに私も感じております。ただ、学校がどういうふうに実は使っているかと言いますと、先ほどもありましたように、音楽室だとか家庭科室もそうなんですけど、うちの学校の状況を見てますと、前日に準備しているんです。例えば、1、2時間目に家庭科があって調理するってなると、朝から準備をしていると間に合わないので、結構前日から準備して物が置いてある。特に多分小学校だからかもしれないですけども。音楽とかそういう状況があるのは確かです。ですから、一緒に使うとなった時の時間割の見直しとか、色んなことの条件はあるかなというようには感じます。関連して、管理の問題は、今も非常に重くありますね。教育施設を貸し出しているという、今、発想なんです、そうすると学校は全て管理をしなくちゃいけないんです。今後は、どういう考え方になってくるのか、例えば、教育施設じゃなくて、学校も地域の方もそこを使う、共有で使う、という発想でいけば、教育施設にもなれば、地域の開放する、そういう公共施設にもなるという考え方をすれば、管理を誰がするか、どこがするかというところの考え方を変えていく、という事が、開放を進めていく一つの大事な学校としてのポイントかなと思っています。それで、千代田区なんかは、警備員が常駐していると書いてありまして、目黒区なんかは恐らく警備員がいるんじゃないかなと思うんですけども、区部の学校に行きますと、セキュリティの仕方が違いまして、校庭開放も校舎の開放もしやすいかなと思うのは、かなりの、朝から夜遅くまで警備員がいる、常駐しているんです。府中の場合は、完全セキュリティ、セコムでの学校管理になっているので、人がいるんですね。だからですね、この前言った区部の学校なんかでも体育館とかはもう開けっ放しで、学校の方は管理する、してないのかな、と思う位、自由に出入りできる状況にある。というのは、環境的に開放が進みやすい状況があるのかなというふうに感じたことはあります。以上です

○会長 はい。ありがとうございました。何かコメントされることはありますか。事務局の方から。よろしいですか。

○事務局 はい、ご意見ありがとうございます。委員が今言われていた、施設を貸し出す上での管理という、これは、やはり今課題にはなっていて、今、あくまで教育施設を貸し出すという考え方をベースにしている中で、基本的には学校の管理をお願いしております。ただ、先生の働き方改革とかもありますので、先生の負担をこの改築の時に改善できるような形というところで、ゾーニングですとか、機械警備を入れたりとか、そういったところの中で、上手く対応できることを今検討しているところです。これが、公共施設マネジメントでも検討してもらってますけども、そういった中で、学校の開放の位置づけが少し変わってきて、例えば公共施設で一つの施設を無くすかわりに一つ学校を貸し出す、という事を積極的にまた、公共施設の位置づけの中でやっていく、ということになってくれば、それは例えば警備員を配置するとか、そういったところで少し考え方のシフトをしていけるタイミングになるのかなと思っています。今、学校開放を拡大していく流れの中に、警備員の配置を入れてしまうと、やはり公共施設の総量圧縮という考え方の中では、施設が一つ増えてしまう形にもなりかねない、運用運営に係る経費が増大していつてしまう恐れもありますので、そういったところは、公共施設全体での議論をしていく中で、今のご意見もお伝えする形としていきたいと思います。

○会長 はい。ありがとうございました。ちょっと、今のお話を聞いていて、ちょっと私自身が思ったことなんですけど、例えば、音楽室なり家庭科室なり、翌日の授業の準備を前の日にされていることが多い。恐らくあれですよ、その貸し出しを前提にしなければ、そういう機器とか楽器なんかも基本的には、その部屋は施錠できる訳ですから出しっぱなしでいい訳ですよ。けど開放して夜の時間とか使う、週末使うってなれば、逐次その管理の切れ目のところで、倉庫にしまわなければならない状況になってくるんですね。現状の家庭科室はなんていうか、日常的に貸し出すというより、発災時の避難する方が出てきた時のセキュリティラインの切り直しという要件が出てきたと思うんですけど、多分、要望のある音楽室うんぬんということになると、恐らく夜間とか週末とかいう話になってくるので、その辺ですよ。それで多分、小学校とか、私、あの専門外なので勝手にそう思っている訳ですけど、小学校とかはさすがに児童に倉庫の片づけを手伝わせる訳にはいかなくて、やっぱり学校側の負担が確実に増えてくるんじゃないかなと思うんですね。例えば、それが中学校だったら、ある程度ハンドリングできるのかなとか。逆に中学校でそれでそういう部屋を準備してあげて、部活動とか、部活まではいかなくても、も

うちちょっと仲間とか地域の人たちの中でやる活動が、そこに差し込める可能性があって、新しい可能性が出てくるだとか、その辺のもうちょっと丁寧な見極めも必要なのかな、という感じを持ちました。いかがでしょうか。あの小学校、中学校で状況も違うんじゃないかと思うので。何か。

○事務局 先ほど、委員からお話ありましたように、実はこの第一中学校というところが正面にありますけれど、左下のところのプランニングのところ、ここのプランニングのところ特別支援学級を持っているものですから、そこにある美術室、技術室、音楽室、家庭科室などの部屋、体育館もそうなんですけど、全て防音で出来るような部屋が作ってございまして、また、この学校の特色として、合奏が非常に盛んであるということで、音楽室だけでは間に合わないものですから、部活動がですね、実は家庭科室でもやってますし、技術室でもそれぞれのパートで楽器を持って行ってやるというようなことがあります。またあの、多目的ルームであるとか、会議室というようなことが書いてあるところがありますが、地域開放ですね、この部分も防音対策が取れてまして、その中で、音楽はどうしても音が外に漏れないような作りこみになっております。今後、ちょっと、ここをどういうふうに開放するかというのは一つあるかと思います。また、先ほど、技術室というお話があったんですけども、技術室は今回開放ゾーンには入っていないんですが、例えば、この文化センターで言うと、そういった部屋もこの部屋は例えばございまして、ちょうどこの部屋の下には和室のお広間が、そこに一中の大広間みたいなものが実はこの下にございます。また、ここには会議室がありますけども、同じように多目的ルームがあるような形で、ちょっとまだ文化センターとか地域コミュニティの方が、連携が取れていない事があるのですが、もしかしたら、さっき言った時に連携が取れるようなこともあるのかなというふうには思いますので、そういったところもご協力いただければなと思います。

○会長 はい。ありがとうございました。この件について、何か他に。

○委員 第一中学校なんですけども、昨年に、吹奏楽部OB・OG吹奏楽団というのが立ちあがりまして、実は以前に使わせていただいて、元々、吹奏楽部の顧問をされていた先生が、今、講師として学校に戻られていて、お声がけがありまして、団員が60人程でありがたく使わせていただいているのですが、多目的ルームと、あと、家庭科室ですね、音楽室の方まで開放していただいて、しかも、打楽器とかはなかなか難しいので、学校のものをお借りしています。それぞれ吹く楽器は個人持ちの個が多いんですけども、実際に12月にはアリーナの方でコンサートなども開かせていただいて、団員60名とその保護

者とか中学生、吹奏楽部の子たち、あと近隣の方とか300名ほど集まって、とても助かっております。そういう開放していただけて本当にありがたいなと思っております。今は、先生がまだ講師でいらっしゃるということで、お言葉に甘えて、見ていただいてやっているんですけども、この2月、来月くらいには、外部団体登録をして、きちんと市の市の方の施設を使わせていただいて、コンサートも開いていきたいかなと思っております。

○会長 はい。ありがとうございます。既にそういう運営がされているということなので、良い面はプラスして、取り入れるといいかもしれません。特に質問等はなしでよろしいですか。はい。ありがとうございました。

○委員 地域開放の諸室の活用についてのお願いといたしますか、ここ、災害時に要介護者用スペースになると思うんですが、例えば、一中だったり、特別支援教室に通われているお子さんは、馴染みがある学校なので、余りこだわりなく避難されると思うんですが、市内の特別支援学校に通われているお子さん、特に自閉傾向に強いお子さんは、初めての場所に行くとパニックを起こされるとよく聞いていますので、是非、日ごろの地域開放の中で、そういった配慮の必要なお子さんが使いやすい、使った事はあるよ、という経験を積み重ねられるような、日ごろの誘導というんですかね、開放に努めていただけると、いざという時に避難してる時に、お互いに安心して使えるかなというふうに思います。地域の放課後等デイサービスの事業所に声をかけるとか、地域福祉推進課で防災街歩きとか、定期的にやっているんですけども、そういった時に、当事者の方に参加していただいて、トイレはこんな感じで使えるねとか、そういうのが分かるだけでも、当事者にとっては安心感につながるので、そういった使い方を日ごろからしていただけると、いざという時に安心かなというふうに思います。以上です。

○会長 はい。ありがとうございました。特によろしいですね。何かありますか。はい、その他いかがでしょうか。

○委員 先ほどの会合で使わせていただいている件なんですけど、防犯面についてということで、9時半集合で12時半必ず撤収という形をとっているんですが。日曜日なんですね、日曜日の午前中に月2回、やっぱり鍵を1か所だけ開けて、そこから出入りという形にして、15分、開始から15分で必ず施錠しています。遅れてきた子は、実はあそこ、なかなか音楽室とか電波が届かなくて、30分外で入れなくて、ということはあるんですけど、防犯面はきちんとこっちで管理して、させていただく。アリーナを他の部活で大会とかで使っ

ていて、会議室を食事場所にしているところもあるんですね。そういうところは保護者の方はずっと立っていました。なので、今のところは、使わせていただいている方で、きちんと管理しているという形です。以上です。

○会長 はい。ありがとうございました。やはりあれですね。そういうソフト面の工夫というのも結構ハード面を整備して、ある程度ちゃんと平面計画が区画化出来たとしても、実際それを開放始めていって、ソフト面でフィードバックが出されることもあるのしょうから、今後、この正式な開放のプロセスを進むに当たって、その辺をきちんと積み重ねていただいてフィードバック出来るように、何か上手く工夫していただくといいのかなというふうに思いました。その他いかがでしょうか。

○委員 以前勤務していた世田谷区立烏山中学校というところは、平成16年に改築をして、新しい校舎になった時の議論がこういう開放と実際教室をどうするのかということでした。そこは、体育館とプール2層にして、社会開放もして、それで警備員というか、アルバイトの学生とかもそうなんですが、常駐して、夜開放し、学校の部活動が終わった後も、担当がついて、最後はその人たちが全て閉めるという形で、学校としては特に大きな負担もなく、社会開放の方々が最後まで管理するという形がとれていました。学校側も職員室に残っている人たちが、学校側の管理をするという形にしてみましたので、完全に分離してやれたというところでは、すごく勝手都合がよかったかなというふうには思っています。それでさっき仮設校舎の方向性のところでも出たんですが、是非、ちょっと市の方にも考えていただきたいなと思うのが、これから地域の方々と取り組んでいくかという、やはり学校の中にも、是非、本校のコミュニティスクールなんですが、是非、地域の方々と共存しながら教育活動を行っていくような、そういうような時代になっていくかなというふうに、地域人材とか地域の方々の力を借りながら、ということもありますので、地域の方々が入りやすく、何かしらの形で色々と校舎の中で様々な活動ができるような、そういうちょっとステップも色々考えていただきながら、そういう校舎の作り、また、仮設校舎、もしさっきの仮設校舎の話も、作る、作らないというものも大事だとは思いますが、仮に作ったとしても、そのものが何かしらの形、地域の財産として活用できるような形に転用できるような、そういうような方向性とかも話し合っただけだと、非常にありがたいなとも思います。やはり、私も校長として、どうしても気になるのは、こういう校舎改築の時というのは、生徒がすごくストレスを感じる、校庭がなくなるとか、プールがなくなるとか、色んな意味でやはりストレスを感じる部分があるので、そこを極力少なく出来るような方向性で、なお且つ、地域とも共同して色々な取り組みができ

るような、そういう方向性がちょっと盛られるといいのかなというふうには考えていますし、また、是非、様々な学校がやはり中心になって、これから色々なコミュニティを作っていく中心的な核になっていくのかな、というふうにも思いますので、そういった面での地域の核としての学校作りということで、この校舎改築の方向性も検討していってもらえるとありがたいなというふうに思っています。

○会長 はい。ありがとうございました。よろしいですか。今、おっしゃられたように、地域開放の取り組みが、地域の方々との関係づくりに上手く繋がっていくように工夫をしていただくとよろしいかなと思います。

○委員 毎回、学校建築の地域開放とか複合化の時に思うんですけど、この器を使っている学校の先生方というのは、結局、東京都の職員の方々が実際には使っておられると思います、多くの場合は。市が単独で採用されている教員以外は。一方、先ほどの地域開放の時の事例であるように、音楽なんとかとか、地域なんとかというのは、市の事業として、市のコンセプトとかが中心となって、生涯学習とか、そういうものとして使っている。よくそれとは別に、火災時、災害時、今回の能登地震もそうなんですけど、災害時、体育館を開放しますという、その災害の拠点としての活動は、東京都の先生がやる訳ではなくて、本来やってもらう訳ではなくて、言ったら当然協力はしていただくんですけども、本来は市の事業として防災活動というものを、防災拠点として運営していかなければならない、と考えると、やはり、ここは複合化とか、地域開放を進めれば進めるほど、どうしてもさっき言われた第三者的に両方をちゃんと施設としてコントロールする人がしっかりいてあげないと、今言われている自主的にすごく管理してやっていただける方がいらっしゃる時はいいけれども、そういう方ばかりじゃないと思って、そこは市の方は、今後これ進めるのであれば、そこは市の中でちゃんとオーソライズを市が取って、その、お金はかかっても、そこはしっかり揉め事が起こらない様に、人的な被害が出ないようなマニュアルにしっかり進めていく、そのために、最初に言った箱モノに掛けるお金はなるべくなら少なくして、そういったコンテンツの方を充実させるような仕組みの方にお金を投入していくという仕組みに、令和の時代は変えていかないと難しいんだろうなと、常々今見てて思いました。そこは是非、市で方に頑張って予算を確保していくという意気込みを持たれた方がいいんじゃないかと私は思いました。

○会長 はい。ありがとうございました。貴重なご意見です。では、今日は大変盛り上がっていますね。

○委員 盛り上がらなくてすみませんが、今、お話を聞きながら思い出したのが2点ほどありまして、千葉の秋津コミュニティスクール、秋津小学校が多分、コミュニティスクールとして開校されていて、地域の方々が教える側に入ることを自発的にやった学校なんですけど、そこが実はまさに、地域の校庭の一部に自分たち専用の建物を作って、そこで共同に授業を組むという、一緒にやるというやり方をしているんですけども、今の話は、多分、先ほどの仮設の施設と同じように、地域の方々の居場所がきちっと運用されていけば、それだけ必ず地域の方々が学校に関わる機会が増えて、その方々に少しマネジメントに関わってもらえるようにする、運営協議会とかもそうだと思うんですけども、そのための拠点作りみたいな話というのは、市の方で作っていくシステムとしてすごく大事な観点で、それが、もしかしたら学校教員委員会の話ではなくて、市民共同とか、市民局とか、そちらの方との調整になるのかもしれないんですけど、責務としてはそちら側かなと思ったのと。もう一つは、敷地内の緑の管理ですね。これも結構お金がかかっていると思うんですけども、剪定だったりとか、庭の手入れですね。小学校は、多分、ビオトープやったりとか、色々そういう育てるみたいなことをやったりすると思うんですが、むしろそこを地域の方々に、結構好きな方がいらっしゃって、一緒にやっていくみたいな話ってあったとして、そういう方々がちょっと休憩する場所、みたいな話だったりとか。やっぱりその、ちょっと今、箱の話をしてるんですけども、敷地の中にある、ちょっとした隙間の活用みたいなものも、もしかしたらセットなんじゃないかなと思いましたので、是非その辺りも込みで、地域運営のところも少しご議論いただけると。すみません。

○会長 はい。ありがとうございます。地域開放を単に地域利用者に開放するだけでなく、色々な活動をしつつ、担い手をしっかり作っていく、その辺の仕組み作りも視野に入れて、ご検討いただけるといいなと思いました。それでは、大変盛り上がりましたが、議題は、これぐらいにさせていただいて、よろしいでしょうか。

それでは、こちらの議題はこれまでということで。次の議題は、報告事項になりますけれど、八小1～3年生アンケート結果ということで事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、報告事項「八小1～3年生アンケート集計結果」について、ご説明いたします。「資料2-2 八小1～3年改築後アンケート実施結果」をご覧ください。

第4回協議会で報告した改築後アンケート集計結果の一部です。回答数は報告済みですが、協議会后に集計が終わりましたので、今回報告するものです。

八小の児童656名のうち、1～3年生は317名です。有効回答数は、1年生79名、2年生97名、3年生108名の合計284名でした。回答率は89%です。低学年はタブレット端末の操作に慣れていないため、紙のアンケート形式としました。

設問1「今の校舎で良いと思う場所を教えてください」では、1位がプール、2位が体育館、3位がメディアセンターでした。4年生以上のアンケートでは、「教室の前の活動スペース」が1位でしたが、1～3年生のアンケートでは6位でした。高学年になるにつれて他のクラスとの交友関係が広がっていくのに対して、低学年は自分のクラスに留まる傾向が伺えます。また、プールを好きと回答したうちの54%が1年生でした。このことから、新入生にとってプールが新鮮な体験として受け止められているとも考えられます。

2ページをご覧ください。設問1を選んだ理由としては、プールは「きれいで楽しい」体育館は「広いし使いやすい」、メディアセンターは「静かで落ち着く」などの回答がございました。

ページ飛びまして、4ページをご覧ください。設問2「今の校舎で使っていて良いと思うものを教えてください。」では、1位が「自動で水が出るトイレの蛇口」、2位が「教室の机・椅子」、3位が「ロッカーのベンチ」です。この設問の順位は4年生以上と同じで、理由も共通しておりました。

続いて5ページをお願いいたします。例えば、「トイレのじゃぐち」は「泡のついた手で蛇口を触わなくていい」、「教室の机・椅子」では「高さを微調整できる」といった回答がありました。また、その他の回答で、階段に設置された鏡について「下から来る人が見えるから衝突しない」という回答があるなど、低学年ながら設備や備品の使い勝手が評価されています。

6ページをお願いいたします。設問3「これから作るあたらしい学校にあったらいいと思う、教室・場所・ものを教えてください。」の回答を「場所」と「もの」で分類しています。場所では「学習室や落ち着くスペース」、ものでは「自動点灯・自動水栓・自動ドア」といった設備の回答がそれぞれ多数ありました。右の7ページに理由がありますが、理由を見ると、落ち着くスペースについて「いらっとしたら逃げれるちょっとしたスペース」といった回答があるなど、4年生以上や中学生とも共通したニーズがあることが伺えます。

資料22の説明は以上になります。

○会長 はい。ありがとうございました。こちらの方は、報告事項ということですが、何か質問やコメントなどございましたら、よろしくお願いいたします。

○委員 とても学年による思考が違うのが顕著に出ていて面白いな。面白いなと言うとあれなんですけども、見せていただきまして。前回の時にも少し効率化のところで、今、例えばロッカーがベンチだったりとか、ちょっとした溜まりみたいなものの重要性の話をしたと思うのですが、やはり1、2、3年生だと、どうしても集団で新しく小学校に入った、新しい仲間とクラスの友達というのがメインになるのが、段々こうやっぱり学年が上がっていくにつれて、個々のグループだったりとか、少し逃げられる場みたいな話、最後のところにもちょこっと3年生くらいが発言していたのかもしれないですけど、出て来ますので、この辺りのプランニングの時の少しそういう柔軟性みたいなものをやはり視野に入れていただくのもいいのかなと思っています。

○会長 はい。ありがとうございました。他はよろしいでしょうか。はい。特にないようですので、議題の2「報告事項」は以上にさせていただきたいと思います。それでは、次第5の「その他について」事務局から説明をお願いします。

○事務局 それでは、「その他」といたしまして、次回以降の開催日程をご連絡いたします。次回、第6回は、3月27日(水)午後2時から、教育センター2階会議室で開催いたします。会場が変わりますので、ご注意ください。また、第7回は、その翌月の4月24日(水)午後1時30分から、同じく教育センターで開催いたします。ご多忙かと存じますが、ご出席のほど、よろしくお願いいたします。第8回以降の日程については、決まり次第早めにお知らせさせていただきます。

○会長 はい。ありがとうございました。事務局から説明のあった「その他」について、何かご質問やご意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。はい。それではないようですので、これで、本日の「第5回府中市学校施設老朽化対策協議会」を終了させていただきたいと思います。皆さん、お疲れ様でした。